



TITLE:

京都大学結核胸部疾患研究所年報 (昭和 57 年度)

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学結核胸部疾患研究所年報 (昭和 57 年度). 京都大学結核胸部疾患研究所紀要 1983, 16(1/2)

ISSUE DATE:

1983-07-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/52160>

RIGHT:

京 都 大 学

結核胸部疾患研究所年報

昭 和 5 7 年 度

(1 9 8 3 年 3 月)

京都大学結核胸部疾患研究所

京 都 大 学

結 核 胸 部 疾 患 研 究 所 年 報

昭 和 5 7 年 度

(1 9 8 2 —)

京都大学結核胸部疾患研究所職員

(昭和58年3月31日現在)

所 長 教 授 佐 川 弥之助

(内科学第一部門)

主任教授：前川暢夫，助教授：中西通泰，講師：川合 満，助手：西山秀樹，倉澤卓也，山本孝吉，講師（非常勤）：池田宣昭，今井節朗，中井 準，吉見輝也，岩田猛邦，河野博臣，技官：西尾貞子，本間トキエ

(内科学第二部門)

主任教授：大島駿作，助教授：泉 孝英，講師：木野稔也，助手：大山口渥，門 政男，松井祐佐公，平田健雄，講師（非常勤）：日置辰一郎，中島道郎，福岡謙助，杉本幾久雄，小松幹雄，佐藤篤彦，門田和紀，技官：今井保代，技能補佐員：谷岡文子

(胸部外科学部門)

主任教授：寺松 孝，助教授：伊藤元彦，講師：和田洋巳，助手：瀧 俊彦，田村康一，光岡明夫，講師（非常勤）：宮田暉夫，吉栖正之，秋山文彌，日野常稔，技官：平井 要，技能補佐員：野口恵司

(病理学部門)

主任教授：安平公夫，助教授：竹田俊男，助手：鈴木康弘，細川昌則，講師（非常勤）：馬場満男，三井洋司，新納英夫，山本 寛，浜本康平，江崎孝三郎，技官：松下隆寿，小岸久美子，岩井昭一，技能補佐員：富田由美子

(細菌血清学部門)

主任教授：桂 義元，助教授：細野正道，助手：喜納辰夫，西川伸一，講師（非常勤）：徳永 徹，湊 長博，事務官：清水一技，技能補佐員：高沖悠子

(細胞化学部門)

主任教授：市川康夫，助教授：大川欣一，講師：永田和宏，助手：前田道之，堀内正宏，講師（非常勤）：及川淳，藤沢敏孝，技官：島田道子，事務補佐員：坪田晴子

(臨床肺生理学部門)

主任教授：佐川弥之助，助教授：加藤幹夫，講師：佐藤公彦，助手：大井元晴，講師（非常勤）：真鍋 貴，仲田 祐，山林 一，山田久和，太田和夫，阿部光幸，技能補佐員：服部央子，石田嘉子

(事務部)

事務部長：西村利雄，管理課長：須羽治夫，庶務掛長：水谷繁夫，同主任：近藤英子，同事務官：堀田良恵，大

山達夫, 同技官: 田中 稔, 経理掛長: 野村忠雄, 同主任: 佐藤良男, 野元頼子, 同事務官: 畑 勝, 前野正世, 北野和男, 事務補佐員: 中瀬安子, 施設掛長: 田中信雄, 同主任: 前田久男, 同技官: 進士 悟, 西川景暁, 岩井昭一, 松浦 康, 小西喜一郎, 藤木清文, 同事務官: 高安忠一, 水原貞子, 渡辺光子
業務課長: 保苅 健, 課長補佐: 船谷幸司, 医事掛長: 丹羽 博, 同事務官: 橋本敏子, 関 保子, 事務補佐員: 黒田俊子, 収入掛長: 土田芳樹, 同主任: 畠中秀雄, 同事務官: 野田芳子, 佐竹セツ, 藤井芳克, 竹内孝子, 事務補佐員: 中村房枝, 集治昌代, 芦田明子

(附属感染免疫動物実験施設)

施設長(兼)教授: 桂 義元, 助教授, 清水慶彦
技官: 飛田 勇, 門田一美, 大字雪雄, 安岡倉一, 近藤照子

(電子顕微鏡室)

技官: 増田 稔

(附属病院)

病院(兼)教授: 大島駿作

(第一内科診療科)

科 長(兼)教授: 前川暢夫
外来医長(兼)講師: 川合 満
病棟医長(兼)助教授: 中西通泰
医員: 村山尚子, 桜井信男, 医員(研修医), 丸井康子, 鈴木雄二郎, 鈴木克洋

(第二内科診療科)

科 長(兼)教授: 大島駿作
病棟医長(兼)講師: 木野稔也
外来医長(兼)助教授: 泉 孝英
医員: (北市正則), 藤村直樹, 長井苑子, 医員(研修医), 普天間健, 吉澤泰介, 鏑田武志, 西村浩一, 福田康二, 古江増裕

(外科診療科)

科 長(兼)教授: 寺松 孝
外来医長(兼)助教授: 伊藤元彦
病棟医長(兼)講師: 和田洋己
医員: 住友伸一, 竹内吉喜, 竹田秋郎

(放射線科診療部)

科 長(兼)教授: 佐川弥之助
外来医長(兼)講師: 佐藤公彦, 講師(非常勤): 阿部光幸
医員: 水野 融, 医員(研修医): 新林成分, 鎌苅邦彦, 山岡新八, 福永隆文

(検査部)

検査部長, 助教授: 久世文幸, 医員: 北市正則, 医員(研修医): 戸田佳代子, 技師長: 木津 啓, 技官: 前田清子, 黒住真史, 和田ひな, 山根すま子, 技術補佐員: 春名和代, 吉村佳二, 酒井敏江

(放射線部)

放射線部長(兼)助教授: 中西通泰, 技師長: 浜川純一, 撮影主任: 藤岡信良, 技官: 大坂泰夫, 曾我部康之, 灘井智代子, 田中龍蔵, 技能補佐員: 小林 忍

(薬剤部)

薬剤部長: 千熊正彦, 薬剤主任: 沢岡平和, 技官: 藤原壽子, 川田昌子, 小林千代子, 川勝一雄, 事務主任: 宇野初枝

(看護部)

看護部長: 平野照子, 看護婦長: 松田比佐子, 近藤信子, 西森三保子, 和多田すみ子。副看護婦長: 小林とよ,

斎藤千鶴子, 山本喜美, 技官: 松本敏枝, 田中松代子, 小林梅野, 小林富貴子, 小川まゆみ, 阿部喜代子, 柴田佐代子, 大山峯子, 岩佐純子, 末田恵子, 山中祥子, 榊喜久子, 井藤泰子, 濃野ヒロ子, 福田千恵子, 田尻春代, 安藤純子, 丘 恵子, 藤井喜代子, 荻田孝子, 木村昭子, 四方睦美, 相川三千代, 高橋わさ子, 稲垣美智子, 松田初枝, 二宮トミ子, 村西直美, 衛藤泰子, 内藤敏子, 平畑早苗, 渡部幸子, 米澤カヨ子, 坂東フサエ, 園田正子, 稲田ひろ子, 能井美千代, 森 朝子, 片桐久江, 内木カネ子, 松本不二, 原田芳香, 技能補佐員: 渡辺ヒデ子, 富永妙子, 湯浅里恵, 川中マスコ, 松原千里, 今西美千乃, 寺戸美枝子, 山西順子, 北川繁子, 小林裕子, 永利明美

教 官 人 事

内科学第一部門の教官人事について

内科学第一部門では坂東憲司助手が昭和57年8月に福井赤十字病院呼吸器科へ赴任したのに伴って、その後任の人事を全教官の集いにおいて部門で行なうことを決めた後、部門内で種々協議の結果、昭和48年京大医学部卒で米国留学中の山本孝吉君の内諾を得たので帰国を待って、昭和58年1月1日付で助手の発令を見た次第である。同君は研修を終え医員（京大内科第一講座）として勤務した後、昭和56年1月10日から昭和57年12月11日まで、Denver の National Jewish Hospital の研究員として R. B. Johnston Jr. のもとで Macrophage を用いて喰菌能に及ぼす種々の要因の影響を検索した。今後は compromised host における感染症の治療に関しても仕事を進めてほしいと願っている。

（前川 暢夫）

胸 部 外 科 学 和 田 洋 巳 講 師

和田君は、既に昭和51年より3年間、当部門の助手であり、当時、紹介記事を書いているので、再度当部門講師を御願いした経緯について御紹介したい。

昭和55年、島田市民病院に呼吸器科を創りたいという話が、現佐川所長を通じてもち込まれた、設備その他より適当と考え、当時の教室内で手術が最もうまいと思っていた和田君を説得、赴任して戴いた。その際、彼の短所である圭角の多い性格を指摘し、留意するよう忠告した。

私の苦言が有効であったか否かは判らないが、少くとも島田市民病院の呼吸器科は隆盛の一途を辿り、手術件数も年間100例を越えてきた、とくに素晴らしいことは、院長や医師会の方々の評判が大変よいということである。

今後ともに、島田病院での体験を基に教室及び研究所の発展に努力して戴きたいと考え、帰任を御願いした次第である。

（寺松 孝）

胸 部 外 科 学 光 岡 明 夫 助 手

昭和48年京大医学部卒業、当部門にて臨床研修の後、昭和49年より京大大学院医学研究科に入学し、胸腺機能と遅延型アレルギー調節機構について研究。昭和53年4月より天理よろづ相談所病院胸部外科医員。昭和55年9月から1年間、米国の国立癌研究所に留学。昭和56年11月から当部門医員となり、続いて昭和57年4月から助手に任用される。肺癌の集学的治療と画像診断を中心に活動予定。妻・長女と3人家族。大阪市出身。

（寺松 孝）

学術集会記録

昭和56年度京都大学結核胸部疾患研究所学術講演会（昭和57年1月30日（土）京大会館）

〔研究業績〕

1. 結核菌以外の抗酸菌による感染症——主な菌種の同定と薬剤感受性——

内科学第一部門 久世文幸

結核菌群とらい菌以外の抗酸菌が人体に感染症（非定型抗酸菌症）を起すことが明らかになってから約30年を経過している。抗酸菌の分類学の進歩と共に本症の疫学、臨床像については多くの知見が得られて来たが、本症の原因菌である多くの菌種が諸種薬剤に対して感受性の低いことからその治療術式に関してはまだ確立されたとはいえ難い。また結核菌に比較するとこれらの菌種は実験動物に対する病原性が低く、治療効果を判定するための感染モデルの作成にも種々な困難を伴っている。以下本邦で原因菌として最も頻度の高い *M. avium-intracellulare complex* と *M. kansasii* について表題について概観したい。

光発色を特徴とする *M. kansasii* は本症の原因菌の6～8%をしめる。本菌は Rifampicin に感受性があり、他に TH, EB, SM, KM, INH などにも感受性を示す場合が多く、SM・TH・REP, SM・EB・RFP などの3者併用術式で臨床的に治療効果も認められている。本菌はマウスに対して比較的高度の病原性を有し、尾静脈感染による感染モデル作成も可能で前述の術式の効果も私共の実験で確認されている。

本症の原因菌の80～90%をしめる *M. avium-intracellulare complex* における現在の内科的治療の主体は抗結核薬の多剤併用である。

RFP, KM, EB, CS, INH, TH などの4～5剤併用で比較的良好な臨床成績を得たとの報告もある。私共の尾静脈感染モデルを使用した成績（TMC 1469株使用）では RFP, KM, EB, CS, TH でかなりの治療効果を得ているが、対照マウスの肉眼的病変の僅少さ、臓器内還元生菌単位の経時的な自然減少の傾向からみて感染モデルとして満足すべきものではなかった。より強い病原性を持つ菌株の選択、実験動物の選択あるいは人為的な操作による本菌に対する感受性の増強という2つの側面から今後検討が必要である。

より強い病原性を持つ菌株選択の1つの試みとして、Cornmeal glycerol agar 上で種々の形態を示す集落を各固に分離選択し、それぞれについて薬剤感受性とマウス尾静脈感染による病原性を検討中であるがその一部の成績について要約する。上記培地上でそれぞれ smooth thin transparent 型 (T & TD), rough (R) 型を示す菌は病原性が強く、intermediate 型 (IM), smooth dome-shaped opaque 型 (D) は病理組織学的所見共に差は明らかであった。T型集落の選択によりより良好な感染モデル作成の可能性がある。感染後7週間後でT型、R型集落はびまん性繁殖型肺病変を示した。同時に検討した各集落ごとの薬剤感受性 (CET, RFP, GM, TOB, KM, EMB) ではT型、R型、IM型は感受性が低く、D型は感受性が高い。EBのみはその差が顕著でなかった。MIC でその差は2菌株においては30倍から1000倍以上にもおよんだ。

2. 呼吸器の感染防御機構に関する研究

内科第二部門 門政男

呼吸器の細菌感染に対する防御機構として、全身的な感染防御の他に気管支・肺における局所的な防御機構が重要な役割を有している。この局所的防御機構は、主として気管支分泌液中の液性成分によって発現されるものと考えられているため、気管支分泌液中の液性成分を測定して各種呼吸器感染症との関係を明らかにする目的で研究を行なった。従来より、気管支分泌液中の液性成分の研究には、喀痰が用いられてきたが、喀痰は不均等であるため、その中に含まれる液性成分の測定は不確実であった。そこで、演者は、直接気管支内にゾンデを挿入して滅菌生食水 10 ml で気管支を洗浄し、得られた洗浄液中の IgA, IgG, IgM, リゾチム、総蛋白量を測定

した。また、洗浄液の濃度をふせぐため、各疾患群の比較は、液性成分の総蛋白量との百分比を用いた。研究対象は、慢性気管支感染症（慢性気管支炎、気管支拡張症）13例、肺結核症8例、対照群20例であり、慢性気管支感染症をさらに炎症の軽度なものと強いものに分けた。気管支洗浄液中の IgA, IgG 濃度は、軽度の炎症を伴った慢性気管支感染症および肺結核症では対照群に比べて低値であった。IgM については、わずか4例に微量の IgM が検出されたが、他の症例では測定不能であった。リゾチームは、慢性気管支感染症、肺結核症で、対照群に比べて低値を示した。また、気管支洗浄液中の IgA, IgG, リゾチームは、血清中のものとは相関関係を認めず独立したものであった。気管支分泌液中の IgA は、分泌型 IgA として知られ、気管支粘膜表面での感染防御に当たり、IgG は末梢肺領域での防御に関係しており、リゾチームは単独では溶菌酵素として、また、IgA, 補体と共存すれば強力な bacteriocidal activity を持つことが認められている。従って以上の成績より、気管支分泌液中の IgA, IgG, リゾチームの低下が、気管支感染慢性化の主要な原因となっていることが考えられた。次に、気管支分泌液中の IgA, リゾチームの動態を調べるため、Wistar 系雌ラットを用いて研究を行なった。リゾチームについては、ラット臓器内のリゾチーム含有量を測定し、肺に最も多量に含まれていることを証明した。ついで、卵白リゾチームを静注および皮下注にて投与し、気管支を洗浄して洗浄液中のリゾチームの変動を測定したが、リゾチーム濃度の上昇は認められなかった。¹²⁵I 標識卵白リゾチームを用いた方法（オートラジオグラフィー）にても、外来性異種リゾチームの気管支内への移行は認められなかった。そこで、本来生体が所有するリゾチームの産生あるいは分泌を高める方法について研究を行なった。ラットに Hamburg II 型喫煙装置を用いてハイライトの煙を吸引させ、煙の刺激によって気管支腺分泌を亢進させると、喫煙20分後をピークとするリゾチームの増加を認めた。気管支腺（漿液腺）の分泌促進剤である Bromhexine を投与した場合にも、2時間後をピークとするリゾチームの増加を認めた。IgA については、ラットをタバコ煙で刺激して気管支腺分泌を亢進させると、リゾチームと同様に20分後をピークとする増加を示した。なお、1日15分、2週間連日喫煙させたラットでは、気管支洗浄液中のリゾチーム、IgA とも減少していた。以上の研究成績より、気管支分泌液中の IgA, リゾチームは気管支腺（漿液腺）より分泌され、炎症などの刺激が加われば増加するが、炎症が長期にわたればかえって減少し、それがまた気道の感染を容易にさせる原因となる可能性を実験的に証明した。

3. 慢性呼吸不全にみられる睡眠時呼吸異常の研究

臨床肺生理学部門 大井元晴

睡眠時における呼吸の研究により、睡眠時無呼吸症候群の存在が知られ、また慢性閉塞性肺疾患などで睡眠時、酸素飽和度 (SaO₂) の悪化があり、これは無呼吸によるものと、急速眼球運動 (REM) 睡眠にともなう、無呼吸ではない、比較的持続時間の長いものとがあり、また前者も、特に REM 睡眠で悪化し易いと言われている。

本研究では、胸郭の変形、肺活量低下が、呼吸不全の主な原因と考えられる結核治癒後慢性呼吸不全症例において睡眠時モニターを行った。

結核治癒後慢性呼吸不全3例（男2，女1）を対象とし、いずれも高炭酸ガス血症をとまっている。症例1は24%酸素吸入下で、症例2，3は空気呼吸でモニターを行い、oximeter では SaO₂ はそれぞれ89, 90, 92%であった。

睡眠モニターは、脳波は10-20法で、C₃-A₂, C₄-A₁ により、眼球運動は眼球電図により、筋電図は頤下筋、胸鎖乳突筋より表面筋電図により、呼吸はサーミスターにより鼻と口のフローをとり、マグネットメーターにより胸部、腹部の前後径の変化を、SaO₂ は、HP 47201 A oximeter により耳介より、さらに心電図を、8チャンネルレコーダーに 1 cm/sec で記録し、一部はデータレコーダーに記録した。睡眠の判定は国際分類法により30秒毎に行い、SaO₂ は各30秒間の最高値、最低値より平均 SaO₂ を計算した。

症例1では、SaO₂ は Non-REM 睡眠で数%低下し、REM で最低41%まで低下するが、この低下は覚醒によって回復し、10秒以上の無呼吸 (A) は無く、平均 SaO₂ 80%以下の最長時間は30分であった。26%酸素吸入 (SaO₂ 92%) によっても REM 睡眠の SaO₂ の低下は防止できなかった。症例2では SaO₂ は REM 睡眠で最低63%で、Aによるものでなく、平均 SaO₂ 80%以下の最長時間は13.5分で、REM 睡眠は覚醒によって中断されない。酸素 11l/min 吸入 (SaO₂ 97%) で、REM 睡眠の SaO₂ の低下は起らなかった。

症例3は、Aは21回あり、18回は閉塞性で、1回は混合性で、REM睡眠時に最長36秒で、 SaO_2 は最低72%で、平均 SaO_2 80%以下の最長時間は30秒で、REM睡眠はA後の覚醒で中断され、短く、最長1.5分であった。

結核治療後慢性呼吸不全においても、慢性閉塞性肺疾患と同様に、睡眠時無呼吸により SaO_2 の悪化する症例と、REM睡眠にともない、無呼吸でない、持続時間が長く、 SaO_2 の悪化する症例を認めた。

4. 産生粘液による肺腺癌亜型分類

胸部外科部門 玉田二郎

肺腺癌亜型分類として、分化度、組織形態、細胞形態での分類が試みられている。演者はこれらに加えて、肺腺癌細胞の産生する粘液による亜型分類を行なった。

切除標本ホルマリン固定切片に対し、Marie. R. Green による Ethyl-Stains-All 染色を行い、更にノイラミナーゼ消化試験による態度によって、癌細胞内ないし癌巣腺腔内に含まれるムチンを同定した。ムチンの有無及び含有比によって、肺腺癌を4亜型に分けた。1) シアロムチン型、2) シアロムチン、スルホムチン混在型、3) スルホムチン型、4) 酸性ムチン非産生型

i 分化度別検討

肺腺癌の分化度とムチン産生には、有意の関連はみられなかった。ただし、低分化腺癌に移行するにつれ、シアロムチン産生優位になる傾向があった。

ii 組織亜型別検討

酸性ムチン非産生型は、腺管型では2%しかないが、乳頭状型では47%であった。産生されているムチンは、腺管型ではシアロムチン優位であり、乳頭状型ではスルホムチン優位であった。細気管支肺胞上皮型では一定の傾向がなかった。ムチンを含む大細胞型はシアロムチン産生型であった。気管支腺由来の腫瘍である腺様嚢胞癌はスルホムチン優位産生であり、粘表皮癌は、シアロムチン、スルホムチン混合型であった。

iii 細胞亜型（下里ら）別検討

個々の切片中で、それぞれの細胞形態をとる部位別に検討した。bronchial gland cell type は、シアロムチン優位であり、酸性ムチン非産生型は、2%にしかみられない。bronchial surface cell type は、スルホムチン優位であるが、酸性ムチン非産生型が21%にみられた。bronchiolar-non ciliated cell type は、69%が酸性ムチン非産生型であり、産生されているムチンは、スルホムチンであった。alveolar cell type も同様の結果であった。goblet cell type は2例のみであるが、シアロムチン優位であった。

iv 他の蛋白産生とムチン産生との関連

アミラーゼ、リゾチーム、Secretory component の存在を酵素抗体法で検討し、いずれかが陽性である割合を、各ムチン産生型でみた。シアロムチン、スルホムチン混在型は91%、シアロムチン型は57%、スルホムチン型は33%が陽性であり、酸性ムチン非産生型では、いずれの蛋白産生もみられなかった。

v 切除後予後

各ムチン産生型の切除後3年、4年、5年生存率をみると、シアロムチン、スルホムチン混在型は、61, 51, 0%、シアロムチン型は、39, 34, 34%、スルホムチン型は、35, 29, 23%、酸性ムチン非産生型は、47, 17, 17%であった。気管支腺腫瘍は、76, 76, 76%であった。

結 語

本研究によって、各肺腺癌の発生母地を同定することは不可能であった。しかし、産生されているムチンは、各腫瘍の生物学的性質を表現する因子として評価しうると考えられた。すなわち、シアロムチン、スルホムチン混在型が、最も気管支腺腫瘍に近似しており、シアロムチン型、スルホムチン型となるにつれて、気管支上皮由来の腫瘍に移行すると思われる、この順に生物学的悪性度が強くなり、酸性ムチン非産生型が、最も悪性度が強いと考えられる。

5. 血液細胞の増殖因子

細胞化学部門 前 田 道 之

正常血液細胞のみならず白血病細胞の試験管内での増殖と分化の制御に関与する要因がここ数年、次々に明らかにされてきた。

これは脾臓コロニー法、軟寒天培養法の開発により定量的に血液細胞の増殖、分化を取り扱う事が可能になったこと及び各種の細胞系統に特異的な液性の増殖、分化因子がみい出されてきたことに負うところが大きい。

私達は先にマウスの骨髄性白血病細胞が液性因子によりほぼ正常の終末細胞に分化する事、分化した細胞は造腫瘍性を消失する事を報告してきた。

今回、成熟したTリンパ球の特異的増殖因子として非常に注目をあびている TCGF (IL2) をめぐるいくつかの話題について簡単に紹介したい。

Gallo 達は1975年ヒト末梢リンパ球を PHAで刺戟する事により TCGF が産生され、TCGFを用いる事によりT細胞を特異的に長期間増殖させ得る事を報告した。次いで彼等は TCGF 存在下に培養株化された皮膚型T細胞白血病である mycosis fungoides 由来の HUT 102 細胞より新しいC型レトロウィルス (HTLV) を分離した。その後、Hinuma 達により同様のウィルスが九州南西部に多発する成人T細胞白血病 (ATL) 患者から高頻度に見い出され、このウィルスが ATL の発症に何等かの関係を有しているのではないかと疑が強くもたれている。

HUT 102 細胞はC型白血球ウィルスを産生するばかりでなく、TCGF, GM-CSF (顆粒球-マクロファージコロニー産生刺戟因子) を産生する事が示唆された。そこで細胞のクローニングにより、①C型ウィルス、TCGF, GM-CSF 産生が分離され得るか、②各々の高産生株が得られるか、③TCGF 依存性のクローンが分離されるか、④C型ウィルスの産生と各々の増殖因子産生の関係はどうか——ウィルス産生株が TCGF を産生し、それが自らの増殖を刺戟しているのではないか——⑤上記以外のリンホカインを作っているクローンが得られないか——と考えたクローニングをおこなった。得られた7株のクローンでの解析の結果を要約すると、①すべてのクローンがウィルス、TCGF, GM-CSF を産生する。②ウィルスに関しては高産生株が得られた、③一つの細胞が二つの異なる血液細胞増殖因子を産生する、④一つの細胞が TCGF を産生し、その産生された TCGF が自らの増殖を制御するかどうかについては明確な解答はでなかったがやや否定的である。

HTLV あるいは TCGF がある種のT細胞白血病の成因として意味があるかどうかは今後の研究をまたねばならないが、特に免疫学における中心課題の一つであるT細胞の機能の解析手段としても TCGF は非常に重要であり、その生理的機能に関しても解明がまたれる。

6. 自己免疫寛容：ヘルパーT細胞寛容の誘導と破綻のメカニズム

細菌血清学部門 細 野 正 道

免疫系は、通常、自己体を構成する物質には不応答状態 (免疫寛容) にある。これは遺伝的に決定されているのではなく、後天的に獲得された形質で、免疫系が発達分化あるいは成熟する過程で遭遇した抗原 (遺伝的に自己成分であるか否かは無関係に) は“自己”とみなされ免疫不応答となる。従って、この過程で遭遇しなかった自己体成分は免疫学的には“非自己”とみなされ、免疫応答が惹起される。

免疫寛容誘導の機構を、異種血清蛋白抗原を用いて調べてきた結果、次の事が判った。①自然発生的に自己免疫疾患に陥り易い系統のマウスでは寛容が誘導され難い。②通常 (正常) 系統のマウスでも、齢が進んだ個体では寛容が誘導され難くなる。③この寛容誘導難易は、ヘルパーT細胞集団の加齢による変化である。④齢が進んだ個体に出現してくる寛容誘導難に関与するT細胞は、(i) 齢の進んだ胸腺環境下ではじめて分化成熟し、(ii) 比較的短命 (short-lived) で、(iii) 脾に trap され易く (spleen-seeking)、非再循環性 (non-recirculating) で、(iv) 脾中で分裂状態にある。これらの結果は、抗原特異的な寛容誘導の妨害に関与しているT細胞は、異種血清蛋白特異的なヘルパーT細胞とは別の特異性を持つT細胞集団であることを示唆している。そこで、次の作業仮説を立てた。加齢が進むと生体内に新たな免疫原性物質 (外因性であろうと内因性であろうと) が生じ、これに反応したT細胞

胞が、インターロイキン2様物質（抗原に遭遇した他のT細胞を活性化する物質）を放出し、ヘルパーT細胞が寛容になるのを妨げる。そこで、齢の進んだ個体には新たな免疫原性物質が出現するのか、そしてそれが自己T細胞を刺激するのかを「膝窩リンパ節肥大反応」(GvH or HvG 反応)を指標として調べた所、次の事が結論された。①齢が進むと、T細胞を刺激できる様な新たな免疫原性物質が出現し、②これは脾中のIa-抗原陽性のマクロファージ集団に発現されており（Ia-抗原が陽性の樹状細胞には加齢に伴う変化は認められない）、③反応するT細胞は、恐らく非再循環性で、脾に親和性をもつ（spleen-seeking）。新たに出現する物質が何かは残された問題である。反応するT細胞の特徴が、前記した寛容誘導難に関与するT細胞と類似しているため、両者の関係を更に詰める必要がある。

以上のモデル実験、及び他の研究者の報告から、免疫寛容の確立と破綻のカギを握っているのはヘルパーT細胞集団の反応能であることが示唆される。では自己抗原に対しても同様な説明が可能だろうか。つまり、自己成分に対する不応答はヘルパーT細胞の不応答によって保証されており、効果細胞は反応性を保持したまま存在しているのか。そこで、一代雑種（F1）の細胞を反応細胞として抗-親系細胞（p）の混合培養反応に於て検討したところ、自己（F1）傷害性細胞が誘導された。このことは上記の仮説を支持している。重度の感染やGvH反応の結果、あるいは老齢個体では抗自己免疫応答が観察される場合がある。恐らくヘルパーT細胞の自己不応答性の保証状態が錯乱され、自己反応性効果細胞が活性化された為と考えられる。

7. 老化促進モデルマウス（SAM）の開発

病理学部門 竹田 俊男

近年“老化”の問題が医学・生物学さらに社会学も含めて重要なテーマとなっている。この現状の中でややもすれば観念論に陥り易い老化の基礎的研究を真に科学的に発展させ、その基本機構を解明するための老化モデル動物の開発が強く望まれてきた。1968年 Jackson 研究所より入手した AKR マウスを病理学部門にて兄妹支配により維持していたところ1973年頃より腹によって急速に老化徴候を示すものがあるのに気づき、その代表的は5腹を選びこれらに由来する系統をp-1, 2, 3, 4, 5とし対照として同じく AKR にて比較的緩徐な正常な老化を示すと考えられる3腹を選びこれらに由来する系統をR-1, 2, 3とし比較検討した。R-1, P-1系で成長曲線が観察されたが両系共に同速度で体重増加を示して発育し其の后18~28週齢頃より $P < R$ と体重差が生じてきた。老化度の判定は私達の考案した老化判定基準に基づき、評点を付して客観化を試みた。観察対象は行動性、皮膚、眼、脊柱計11項目で通常生後8か月齢より4か月毎に行われた。この結果生後8か月齢ですでに明瞭にP系の老化度評点が高いことが分った。R系も加齢と共に増加し生後2年の評点はP系の12か月齢における評点に匹敵した。このうちP-3系での白内障の加齢に伴う高率な発現は特徴的である。平均寿命はR系13.9か月に対しP系は9.8か月と約30%の短縮を示した。生存曲線はR, P系共に加齢過程によって死亡する均一な集団であることを示し、PのそれはRの単純な左方移動ではなく、P系の加齢に伴う生存率の減少の度合はR系のそれに比し大であることが分る。つぎに両系の Gompertz 関数を検討したところ、R系で $\log Y = -0.199 + 0.083X$, P系で $\log Y = -0.224 + 0.130X$ （但し $Y = \text{月齢固有死亡率}(\%)$, $X = \text{生後月数}$ ）となり両系ともに直線関係が観察され勾配は $P > R$ でその差は有意であった。斃死例の病理解剖学的観察の結果、膿瘍、全身アミロイド症、胸腺腫、非胸腺腫性リンパ腫、肺炎等が両系にみる主な所見であったが、一定生後期の特定の疾患が死因になっていることはなかった。胸腺腫および非胸腺腫性リンパを併せた頻度はR系16.3%, P系8.3%でこの所見はAKR本来の遺伝的背景に何らかの変異が生じていることを強く示唆している。以上成長曲線、生存曲線、Gompertz 関数等の結果が示すように、本モデル動物にみる老化徴候は、ほぼ正常な成長期の後に急速に招来する“accelerated senescence”である事実より私達はこのモデルを Senescence Accelerated Mouse (SAM) 老化促進モデルマウスと名付けた。本モデル動物の特徴的な病理所見の1つであるアミロイド症は加齢と共にその頻度を増し、特にP-2系で生後6ヶ月以後100%の発症をみる。このアミロイド蛋白は分子量5,200で今までに報告のない新しい蛋白種でこれを ASsAM と命名した。この他、前述の如く高率に白内障の発症をみる特徴を有するP-3系も存在し、今後 SAM でより多角的・分析的な研究を行うことにより老化基本機構解明のための重要な情報が得られることを望む。

第2回京都呼吸器疾患シンポジウム (57.7.16~17)

主題 1. 低肺機能と生体侵襲

座長 寺松 孝

司会 加藤 幹夫

話題提供 人見 滋 樹 (関西電力病院) 津谷 泰夫 (近畿大・四内)
 渡辺 昌平 (千葉大・肺癌研) 和田 洋己 (島田市民病院)
 中元 賢哉 (国療近畿中央病院) 山田 隆一 (東京医大・外科)
 山林 一 (東海大・内科)

総括講演 仲田 祐 (東北大・抗研)

主題 2. 膠原病における肺病変

座長 大島 駿作

司会 泉 孝英

話題提供 泉 孝英 (京大・胸部研) 福嶋 和文 (徳島大・三内)
 本田 和徳 (浜松医大・二内) 立花 暉夫 (大阪府立病院)
 山本 暁 (国療近畿中央病院) 岳中 耐夫 (熊本市市民病院)
 三井 健司 (慶応大・内科) 滝沢 敬夫 (東京女子医大・内科)
 富永 滋 (順天堂大・呼吸器内科) 石原 享介 (神戸中央市民病院)
 森下 宗彦 (名古屋市大・二内) 近藤 有好 (国療西新潟病院)
 田村 静夫 (関東通信病院) 佐藤 篤彦 (浜松医大・二内)
 浜本 龍生 (名古屋保衛大・内科) 当 銘正彦 (沖縄県立中部病院)
 岩田 猛邦 (天理よろず相談所病院) 藤屋 秀一 (北大・一内)
 藤村 直樹 (京大・胸部研)

総括講演 本間 光夫 (慶応大・内科)

Seminar

To

Welcome Prof, George M, Martin

On

Senescence Accelerated Mouse (SAM)

1. Opening Remarks. Prof. K. Yasuhira, M. D.
2. Development of An Animal Model of Accelerated Senescence in Mice.
T. Takeda, M. D. M. Hosokawa, M. D. H. Hamamoto, M. D. M. Irino, Ph. D.
3. On a Grading Score System for Evaluation of Senescence in Mice.
M. Hosokawa, M. D. R. Kasai, M. D. S. Takeshita, M. VM.
4. Pathological Study on SAM, Special Reference to Age-Associated Systemic Amyloidosis.
S. Takeshita, M. VM. T. Takeda, M. D.
5. Musculoskeletal Changes in SAM.
K. Shimizu, M. D. M. Ishii, M. D. M. Matsushita, M. D. T. Yamamuro, M. D.
6. Biochemical and Immunochemical Features of Systemic Senile Amyloid in SAM.
K. Higuchi, M. A. A. Matsumura, M. A. K. Toda, M. D. K. Hashimoto, M. S.
7. Cataract and Other Ophthalmic Lesions in SAM.
M. Hosokawa, M. D. A. Honma, M. DS.
8. Special Comments. Prof. G. M. Martin, M. D.

Discussion

At 9: 30 A. M., December 9, 1982

The Conference Room of Chest Disease Research
 Institute, Kyoto University

 業 績 目 録

内 科 学 第 一 部 門

〔学 会 発 表〕

〔結核, 非定型抗酸菌症〕

前川暢夫, 五味二郎, 山口智道他 (療研); 新しい治療方法と期間による短期治療の研究 (第2報), 治療後半年間の成績, 第57回日本結核病学会総会 (57.4)

前川暢夫, 芳賀敏彦, 五味二郎他 (療研); RFP 不成功例の検討, 同

桜井信男, 久世文幸, 前川暢夫; 非定型抗酸菌の Cefem 系抗生物質, ST 合剤に対する試験管内感受性, 同
久世文幸, 前川暢夫; 抗酸菌同定項目に関するアンケート結果と簡易同定法に関する検討, 同.

柴田安宅, 前川暢夫, 池田宣昭, 山鳥英世, 藤本憲弘, 森一弥; Griselimycin 半合成誘導体27753RP の抗結核作用に関する試験管内実験的検討, 同.

武藤 真, 倉沢卓也, 前川暢夫, 滝 俊彦, 池田貞夫; 開胸肺生検にて肺結核と診断し得た2症例, 第49回日本結核病学会, 第19回日本胸部疾患学会近畿地方会 (57.6)

牛田伸一, 大久保侃, 倉沢卓也, 前川暢夫他; 1年間経過を観察し得た潰瘍型気管支結核の1例, 同.

山鳥英世, 藤本憲弘, 池田宣昭, 木下知之, 陶 隸士; 肺ガンを疑い手術した糖尿病をともなう肺結核の1症例, 第107回日本内科学会近畿地方会 (57.6) .

前川暢夫, 久世文幸, 内平文章; *M. avium-intracellulare* の集落形態と薬剤感受性並びにマウスに対する病原性, 日結研. (57.6)

前川暢夫, 久世文幸, 内平文章; マウスの *M. avium-intracellulare* complex 感染モデルに関する検討, 同,
山鳥英世, 藤本憲弘, 木下知之, 森一弥, 山内立夫, 小沢 晃, 池田宣昭, 陶 隸士, 三好豊二, 当院における糖尿病を合併する肺結核患者の治療成績, 第37回国立病院療養所総合医学会 (57.9) .

山鳥英世, 藤本憲弘, 木下知之, 森一弥, 山内立夫, 小沢 晃, 池田宣昭, 陶 隸士, 三好豊二, 喀痰中より検出される非定型抗酸菌の現状, 同.

藤本憲弘, 山鳥英世, 木下知之, 森 一弥, 山内立夫, 小沢 晃, 池田宣昭, 陶 隸士, 三好豊二, 田口善夫, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦; 気管気管支結核患者の気管支鏡的経過観察, 同.

千葉 渉, 渡辺 智, 坂東憲司, 長谷光雄; Tracheal bronchus 分枝区域に限局した結核種の1治療例, 第29回日本結核病学会, 第18回日本胸部疾患学会, 第3回日本気管支学会北陸地方会 (57.11) .

西山秀樹, 鈴木雄二郎, 鈴木克洋, 丸井康子, 李 啓充, 村山尚子, 桜井信男, 倉沢卓也, 久世文幸, 川合満, 中西通泰, 前川暢夫; 肺癌治療中に合併した診断困難であった活動性肺結核の1症例, 第50回日本結核病学会, 第20回日本胸部疾患学会近畿地方会 (57.11) .

久世文幸; 結核以外の抗酸菌による感染症, 主な菌種の同定と薬剤感受性, 昭56年度胸部研学術講演会, (57.1)

〔腫 瘍〕

倉沢卓也, 武藤 真, 中西通泰, 前川暢夫, 辻野博之, 黒田直明他; 軽度血痰を主訴とした肺門部早期癌の1手術例, 第36回日本肺癌学会関西支部会, (57.2) .

松原恒雄, 岩田猛邦, 網谷良一, 伊東和樹, 種田和清, 望月吉郎, 李 啓充他; 空洞形成性肺転移を伴った肺扁平上皮癌の3症例, 同.

望月吉郎, 岩田猛邦, カレッド・レシャード他; 癌性胸膜炎の治療成績, 同.

千田道雄, 吉田輝夫, 坂本広子, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準, 内田博也; 気管支動

脈内注入 MMC による急性呼吸不全が疑われた1例, 同.

坂東憲司, 倉沢卓也, 前川暢夫; 対側肺転移で発見された radiographically occult lung cancer の1例, 第49回日本結核病学会, 第19回日本胸部疾患学会近畿地方会 (57.6) .

平佐昌弘, 千田道雄, 坂本広子, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準, 白根博文, 内田博也; AFP, HCG, CEA の高値を示した前縦隔原発と考えられる Embryonal tumor の1例, 第37回日本肺癌学会関西支部会 (57.7) .

石井昌生, 内藤祐子, 小野 孝, 岡田賢三他; 気管気管支への浸潤による症状を主とした Hodgkin 病の1例, 同.

藤本憲弘, 田口善夫, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦, 小橋陽一郎, 市島国雄; 環境暴露により発症したと思われる胸膜中皮腫の1症例, 第50回日本結核病学会, 第20回日本胸部疾患学会近畿地方会 (57.11) .

鈴木雄二郎, 鈴木克洋, 丸井康子, 李 啓充, 武藤 真, 村山尚子, 桜井信男, 西山秀樹, 倉沢卓也, 久世文幸, 川合 満, 中西通泰, 前川暢夫, 光岡明夫; Recklinghausen 病に合併した胸壁 neurofibrosarcoma の1症例, 同.

片山信之, 坂本広子, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準; 成分輸血をくり返ししながら COMP 療法を続けた小細胞未分化肺癌の1例, 同.

岡田賢二, 辻野博之, 倉沢卓也他; 自然気胸で発症し, 手術を施行した原発性肺癌の2例, 同.

〔感染症の化学療法〕

中西通泰, 前川暢夫, 倉沢卓也, 武藤 真, 稲葉宣雄, 小田芳郎, 内平文章; 呼吸器感染症に対する Sulbactam/Cefoperazone の臨床的検討, 第30回日本化学療法学会総会 (57.6) .

前川暢夫, 久世文幸, 西野武志, 杉本幾久雄他; 呼吸器感染症由来の臨床分離菌に対する各種 β -lactam 系抗生物質の抗菌力について, 同.

前川暢夫, 中西通泰, 村山尚子, 山内立夫, 稲葉宣雄, 小田芳郎, 内平文章; 呼吸器感染症に対する RO13-9904 (Ceftriaxone) の臨床的検討, 第29回日本化学療法学会東日本支部総会 (57.11) .

中西通泰, 前川暢夫, 桜井信男, 村山尚子, 李 啓充, 丸井康子, 岩田猛邦, 網谷良一, 望月吉郎, 種田和清, 田口善夫, 辻野博之, 長谷光雄; 呼吸器感染症に対する Mefoxacin (DL-8280) の臨床的検討. 第30回日本化学療法学会西日本支部総会 (57.12) .

前川暢夫, 中西通泰, 藤森一平他, (共同研究), 呼吸器感染症に対する T-1982 と Cefmetazole との薬効比較試験成績, 同.

前川暢夫, 中西通泰, 倉沢卓也, 武藤 真, 原 耕平他, (共同研究), 呼吸器感染症を対象とする Astromicin (KW-1070) と Amikacin の薬効比較試験成績, 同.

前川暢夫, 中西通泰, 稲葉宣雄, 小田芳郎, 辻野博之, 池田宣昭, 三木文雄他 (共同研究) 慢性呼吸器感染症を対象とした BRL 25000 と Amoxillin の薬効比較試験, 同.

〔気管支喘息〕

川合 満, 副腎皮質ステロイド薬の薬効評価 (呼吸器疾患における薬物療法), 第22回日本胸部疾患学会総会, (57.4).

川合 満, 倉沢卓也, 中西通泰, 前川暢夫, 松原恒雄, 岩田猛邦, 網谷良一, 辻野博之, 山田栄一, 賀戸重允, 石橋達雄, 長谷光雄, 江部洋一郎, 江部康二, 中医学の立場から行なわれた気管支喘息患者に対する漢方薬治療, 第16回和漢薬シンポジウム, (57.8).

川合 満, 倉沢卓也, 前川暢夫, 伊藤 隆, 戸谷康信, 高納 修; 抗コリン薬 Sch 1000 の薬効評価について, 第32回日本アレルギー学会総会, (57.10).

田中健一, 井野隆光, 川合 満, 前川暢夫, 河野茂勝, 大幡勝也; TDI による実験的アレルギーに関する研究 (第1報), モルモット喘息発作惹起の試みについて, 同.

河野茂勝, 大幡勝也, 田中健一, 竹岡明美, 川合 満; TDI による実験的アレルギーに関する研究 (第2報),

モルモットの喘息様発作におけるI型アレルギー反応の関与, 同.

K. TANAKA, T. KANNO, A. YAMAZAKI, M. KAWAI, & N. MAEKAWA; On the induction of asthma in guinea pigs by toluene diisocyanate (TDI), XI International Congress on Allergology and Clinical Immunology, (57.10).

〔心身医学〕

河野博臣; 思春期やせ症, 第6回日本心身医学会近畿地方会, (57.1).

河野博臣; 治療困難な心身症に対する漢方治療の有用性について, 症例を通して, 第5回日本プライマリーケア学会 (57.6).

河野博臣, 中西通泰, 川合 満他, 癌患者のセルフ・ケアとしての集団療法の実践, 第6回死の臨床研究会 (57.11).

河野博臣, 玉百蔵昭夫他, 地域医療としてのホスピスコミュニティの構想について, 同.

〔その他〕

田中健一, 山崎 皎, 丸井昭吾; Toluene diisocyanate (TDI) によるモルモット喘息惹起の試みについて, 第25回日本衛生学会総会, (57.3).

田中健一, 丸井昭吾; ジアニシジンの尿中代謝物とその変異原性について, 第55回日本産業衛生学会, (57.4).

村山尚子, 武藤 真, 桜井信男, 倉沢卓也, 川合 満, 前川暢夫, 藤村直樹, 木野稔也; アレルギー性気管支肺アスペルギルス症の一症例, 第107回日本内科学会近畿地方会, (57.6).

岩田猛邦, 種田和清, 網谷良一, 望月吉郎, 松原恒雄, 塩谷直久他; びまん性汎細気管支炎 (DPB) のラ音の肺音図的解析, 第49回日本結核病学会, 第19回日本胸部疾患学会近畿地方会, (57.6).

石原享介, 岩崎博信, 中井 準; COPD の気道抵抗及びその不均等換気検出の試み, BTPS バッグ付 Body-plethysmography を用いて, 同.

望月吉郎, 湯月洋介, 田口善夫, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦, 他; Hughes-Stovin 症候群と思われる1例, 同.

湯月洋介, 田口善夫, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦他; 肺結核類似の陰影を呈した原発性肺クリプトコッカスの1症例, 同.

倉沢卓也, 武藤 真, 村山尚子, 桜井信男, 坂東憲司, 西山秀樹, 川合 満, 久世文幸, 中西通泰, 前川暢夫; 血痰, 咯血の臨床的検討, 第22回日本胸部疾患学会総会, (57.4).

網谷良一, 李 啓充, 伊東和樹, 田口善夫, 望月吉郎, 種田和清, 岩田猛邦, 松原恒雄, Urografin を用いた選択的肺動脈造影, 特発性間質性肺炎における意義, 同.

岩田猛邦, 李 啓充, 田口善夫, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 松原恒雄; びまん性汎細気管支炎の血清蛋白像の検討, 同.

長谷光雄, 千葉 渉, 坂東憲司, 渡部 智; 低肺機能者に合併した肺胞蛋白症の1例, 第29回日本結核病学会, 第18回日本胸部疾患学会, 第3回日本気管支学会北陸地方会, (57.11).

田中健一, 丸井昭吾, 三井俊子, 井野隆光; エポキシ樹脂硬化剤の尿中代謝物とその変異原性, 第11回日本環境変異原学会, (57.10).

望月吉郎, 藤本憲弘, 田口善夫, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦, 小橋陽一郎, 市島国雄; 誤嚥が起因したと思われる肉芽腫を伴った肺炎の1症例, 第50回日本結核病学会, 第20回日本胸部疾患学会近畿地方会, (57.11).

〔誌 上 発 表〕 *発表年はすべて昭57年

〔結核, 非定型抗酸菌症〕

Michiyasu Nakanishi, Tuberculosis as an opportunistic infection, Asian Med J, 25: 683-694.

倉沢卓也, 坂東憲司, 西山秀樹, 前川暢夫, 望月吉郎, 岩田猛邦, 李 英徹, 中井 準, 内平文章, 小田芳郎,

長谷光雄；糖尿病合併肺結核症例の臨床的検討，日胸，41:695-701.

前川暢夫，西山秀樹 結核，短期化学療法，臨床と細菌，9:50～60.

馬淵尚克；マウス実験結核症を用いた強化化学療法の研究，結核，57:73～79.

李 英徹，久世文幸，前川暢夫，鈴木康弘；実験的非定型抗酸菌症に関する研究，4 *Mycobacterium kansasii* 感染マウスに対する抗結核薬の単剤治療効果，結核，57:343～352.

李 英徹，久世文幸，前川暢夫，鈴木康弘；実験的非定型抗酸菌症に関する研究，5 *M. Kansaii* 結核，57:369～377.

〔感染症の化学療法〕

前川暢夫，松本慶蔵，中西通泰，倉沢卓也，武藤 真，桜井信男他（共同研究），慢性呼吸器感染症を対象とする Cefmenoxime (SCE-1365) の臨床評価，Cefotiam を対象とする二重盲検比較試験，Chemotherapy, 30:613～636.

前川暢夫，原 耕平，中西通泰，川合 満，倉沢卓也，西山秀樹，坂東憲司，桜井信男，武藤 真，村山尚子，他，（共同研究），呼吸器感染症に対する 9, 3''-diacetylmidecamycin (MOM) と Midecamycin の薬効比較試験，感染症学雑誌，56:1045～1091.

前川暢夫，中西通泰，倉沢卓也，西山秀樹，藤本憲弘，武藤 真，桜井信男，村山尚子，岩田猛邦，網谷良一，種田和清，小田芳郎，内平文章，賀戸重允，長谷光雄，石橋達雄，池田宣昭，山鳥英世，木下和之，松島留蔵他，呼吸器感染症に対する Cefoxitin (CFX) の臨床的検討，日胸，41:1023-1028.

〔気管支喘息〕

前川暢夫，川合 満，山村雄一他（共同研究），抗アレルギー剤 N-5' の気管支喘息に対する有用性の検討 (Disodium cromoglycate および placebo を比較対象とした多施設二重盲検法による検討)，診療と新薬，16:529～572.

川合 満，前川暢夫；経口抗アレルギー薬 N-5' (Tranilast) の成人気管支喘息に対する臨床的検討，診療と新薬，19:2289～2301.

川合 満；副腎成質ステロイド薬の薬効評価，日本胸部疾患学会雑誌，20:1144～1154.

中島道郎，川合 満，倉沢卓也，前川暢夫，木野 稔也，満安清孝，大島駿作，気管支喘息合併本態性高血圧疾患に対する β -選択的遮断剤 Acebutolol の使用経験，呼吸と循環，30:809～817.

田中健一，川合 満，前川暢夫；Toluene diisocyanate (TDI) によるモルモット喘息惹起の試みについて，アレルギー，31:1004～1007.

〔心身医学〕

河野博臣：「死の臨床」の中で思うこと，Oncologia, 1: 167～170.

河野博臣；第三領域の問題と死の臨床-心身医学の立場より，死の臨床，1:18～19.

河野博臣；死の臨床，日本医師会雑誌，88:1089～1095.

河野博臣；心身症とユング心理学，Psyche 1: 1.

〔その他〕

石原享介，中井 準，坂本広子，李 英徹，岩崎博信，梅田文一，恒田時雄，瀬尾憲正；重篤な症状を来したといわれる加湿器肺の1例，日本胸部疾患学会雑誌，20:688～693.

岩田猛邦；Churg-Strauss 症候群，日本臨床，40:増，16-17.

岩田猛邦，泉 孝英；Wegener 肉芽腫症，現代医療，13:1868～1874.

桜井信男，坂東憲司，西山秀樹，倉沢卓也，久世文幸，川合 満，中西通泰，前川暢夫；アレルギー性肉芽腫症，血管炎 (Churg-Strauss 症候群) の1例，京大胸部研紀要，15:94～105.

カレッド，レシャード，水野 浩，竹内吉喜，池 修，藤尾 彰，北野司久，種田和清，市島国雄，小橋

陽一郎, 西和田誠; 後縦隔に発生した褐色細胞腫の1例, 日本胸部疾患学会雑誌, 20:581~585.

Kenichi Tanaka, Toshiko Mii, Shogo Marui, Ikuo Matsubara Hiroyuki Igaki; Some aspects of metabolism and mutagenicity of o-Tolidine and o-Tolidine-based azo dye, *Industrial Health*, 20: 227~235.

田中健一, 三井俊子, 丸井昭吾; ジアニシジンの尿中代謝物とその変異原性; 医学のあゆみ, 123:18-20.

田中健一, 宇都宮忠生; ジメチルホルムアミド (DMF) の毒性について, 産業医学, 24:3~12.

前川暢夫, 加藤幹夫, 川合 満, 泉 孝英, 倉沢卓也, 久世文幸, 西山秀樹, 中西通泰, 臨床医学の展望, 呼吸器病学, 日本医事新報, No. 3017, 3~11.

〔報告, 会報など〕

中西通泰, 呼吸器感染症と経口抗生剤, 左京医報, 18:18~31.

川合 満, 塩田浩政他, トラニラスト (リザベン) の基礎と臨床; *Medical Tribune*, 15, No. 27.

川合 満; 気管支疾患の対症療法, 一般開業医に必要な知識, 名古屋医報, 645号,

川合 満, 木原令夫; 最近の気管支喘息, 薬物療法, *Medical Tribune* No. 25.

今村四郎, 今井節朗, 日置辰一郎, 川合 満他, 自動車排ガス等による環境汚染影響調査報告書, 京都府医師会.

長野 準, 小林節雄, 中島重徳編集, 川合 満他, 気管支喘息のステロイド療法, 中外医学社.

〔研究会 談話会 講演会〕

浅香隆久, 坂本広子, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準; 咳嗽を主訴とし, 頸部リンパ節腫脹, 白血球増多, 胸部びまん性陰影を呈した1例, 第16回びまん性肺疾患研究会 (57.2).

望月吉郎, 李 啓充, 伊東和樹, 田口善夫, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦, 松原恒雄; 他, 視力障害にて発症し, 咯血死した1症例, 同.

武藤 真, 桜井信男, 村山尚子, 坂東憲司, 西山秀樹, 倉沢卓也, 前川暢夫; 慢性関節リウマチに対する金製剤使用中にびまん性陰影を来した2例, 第17回びまん性肺疾患研究会 (57.7).

石原享介, 片山信之, 坂本広子, 李 英徹, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準; びまん性陰影を呈した, シェーグレン症候群と思われる1例, 同.

網谷良一, 田口善夫, 望月吉郎, 種田和清, 岩田猛邦; 四肢腱の多発性腫脹, 小脳性失調, 知能低下, 若年性白内障等の多彩な症状を伴ったびまん性肺疾患の1例, 同.

田口善夫, 藤本憲弘, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦他; 進行性の労作性呼吸困難を呈し死亡した1例 (原発性肺高血圧症), 第18回びまん性肺疾患研究会 (57.9).

藤本憲弘, 田口善夫, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦他; 粗大輪状影を呈し, 肺性心に至ったびまん性肺疾患の1例 (著明な気管支拡張症), 同.

岩田猛邦, 藤本憲弘, 田口善夫, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 他; 喘鳴を呈したびまん性肺疾患の1例 (気管, 気管支アミロイドーシス), 同.

田口善夫, 藤本憲弘, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦他, 小児期より湿性咳嗽を来し, 呼吸不全で死亡した家族歴のあるびまん性肺疾患の1例, 第19回びまん性肺疾患研究会 (57.12).

村山尚子, 倉沢卓也, 前川暢夫, 北市正則, 藤村直樹, 光岡明夫; 多クローン性高 γ -グロブリン血症と胸部X線上網状陰影を呈した1症例, 同.

桜井信男, 久世文幸, 前川暢夫; セフェム系抗生物質等に対する非定型抗酸菌の試験管内感受性, 第14回非定型抗酸菌症研究協議会.

久世文幸, 前川暢夫; *M. avium-intracellulare* complex の CMG 培地上の集落形態と薬剤感受性, 並びにマウスに対する病原性, 第5回臨床抗酸菌談話会.

久世文幸, 前川暢夫; *M. fortuitum* のマウスに対する病原性, 同.

久世文幸; 最近における非定型抗酸菌症の動向, 第19回京阪神呼吸器談話会 (57.2).

石原享介, 片山信之, 坂本広子, 李 英徹, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準; サルコイドーシス39例の臨床的

検討, 第2回サルコイドーシス研究会総会 (57.11).

片上信之, 石原享介, 坂本広子, 李 英徹, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準; Aspergilloma 術後に発症したサルコイドーシスの1例, 同.

坂本広子, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準, 内田博也; 癌性心嚢炎をきたした肺癌症例の検討, 第23回兵庫県肺癌懇話会 (57.6).

片山信之, 坂本広子, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準, Gynecomastia を呈した HCG 産生肺癌と思われる1例, 第24回兵庫県肺癌懇話会 (57.11).

中井 準, 岩崎博信他, Mucoepidermoid carcinoma の1治験例, 同.

石原享介, 片上信之, 坂本広子, 李 英徹, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準; 気管支ファイバースコープにより観察し得た子宮癌肺気管支転移例について, 第5回日本気管支研究会総会, (57.7).

岩田猛邦; 膠原病における肺疾患, 第2回京都呼吸器疾患シンポジウム (57.7).

池田宣昭; 最近の肺結核治療について, 病院側から見た結核の現況, 結核予防研修会 (井手保健所)

中井 準; 抗生物質の選び方, 使い方とくに最近の呼吸器疾患に関連して, 兵庫県保健医協会, 第204回診療内容向上研究会 (57.1).

中井 準; 過敏性肺臓炎の臨床像, 特に夏型過敏性肺臓炎, 加湿器肺について, 第24回神戸市衛生局研究発表会 (57.3).

中井 準; 胸部レントゲン写真の読影について, 須磨医師会 (57.10).

中井 準; 肺癌, その診断と治療, 須磨医師会 (57.11).

梅田文一, 片上信之, 坂本広子, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博信, 中井 準; 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) に伴う刀鞘型気管症について, 第35回兵庫県医師会設立記念医学会 (57.11).

石原享介, 片山信之, 坂本広子, 李 英徹, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準, 過敏性肺臓炎の現状と問題点, 同.

李 英徹, 梅田文一, 中井 準, 岩崎博信, 石原享介, 坂本広子, 片上信之; 諸種消毒剤の結核菌に対する殺菌効果, 同.

中井 準; 肺結核, とくに治療における問題点, 同.

中西通泰, 呼吸器感染症の抗生剤療法, 奈良医師会 (57.4).

中西通泰; 呼吸器感染症と経口抗生剤, 左京医師会 (57.6).

中西通泰; 結核症の診断と治療, 奈良結核指定医会 (57.11).

中西通泰; 呼吸器感染症に対するペングローブの臨床的検討, 多施設治験臨床報告, ペングローブ研究会 (57.11).

中西通泰, 桜井信男, DL-8280 研究会 (57.1).

中西通泰, MT-141 研究会 (57.5).

中西通泰, Sagamicin 研究会 (57.7).

前川暢夫, 中西通泰; Ro-13-9904 研究会 (57.7).

前川暢夫, 中西通泰, AC-1370 研究会 (57.7).

中西通泰, T-1982 研究会 (57.7).

前川暢夫, 中西通泰, KW-1070 研究会 (57.9).

前川暢夫, 中西通泰; DL-8280 研究会 (57.9).

前川暢夫, 中西通泰; SM-4300 研究会 (57.9).

前川暢夫, 中西通泰; Azthreonam 研究会 (57.9).

前川暢夫, 中西通泰; SM-1652 研究会 (57.9).

前川暢夫, 中西通泰; TA-058 研究会 (57.9).

中西通泰, MT-141 研究会 (57.10).

中西通泰, RU-41740 研究会 (57.10).

前川暢夫, 村山尚子, AT-2266 研究会 (57.10).

中西通泰, 鈴木克洋, AC-1370 研究会 (57.11).

中西通泰, Sulbactam 研究会 (57.12).

中西通泰, DL-8280 研究会 (57.12).

前川暢夫, 中西通泰, 鈴木雄二郎; Azthreonam 研究会 (57.12).

前川暢夫, 中西通泰, AT-2266 研究会 (57.12).

Mitsuru Kawai; Clinical experience in the treatment of bronchial asthma with Procaterol in Japan, scientific meeting on the treatment of bronchial asthma with new β -antagonist. Indonesian association of pulmonologist 57. 8. Jakarta.

川合 満; 気管支喘息と β -刺激薬について, 鳥取県東部医師会 (57.5).

川合 満; 気管支喘息の治療について, 神戸市垂水区医師会 (57.5).

川合 満, 気管支喘息の対息の対症療法, 名古屋医師会 (57.6).

川合 満, 気管支喘息の診断と治療, 中京区東部西部医師会 (57.7).

川合 満, 気管支喘息の診断と治療, 福山医師会 (57.7).

川合 満, The treatment of bronchial asthma, Persakabatau Hospital, School of Medicine, University of Indonesia (57.8).

川合 満, 気管支喘息のステロイド療法をめぐる問題点, 内科面から, 第7回関西喘息同好会 (57.9).

川合 満, 気管支喘息に関する最近の知見, 松江医師会 (57.9).

川合 満, 気管支喘息の日常診療について, 左京北医師会 (57.9).

川合 満, 気管支喘息の最近の治験, 宇部医師会

川合 満, 気管支喘息治療の進歩, 香川県内科医会, (57.10).

川合 満, 気管支喘息の診断と治療, 松坂医師会, (57.11).

川合 満, 気管支喘息の治療, 京都府医師会, 綾部医師会 (57.11).

川合 満, 新しい喘息治療について, 大垣内科医会, (57.11).

川合 満, 気管支喘息治療. 最近の進歩, 広島呼吸と循環談話会 (57.11).

川合 満, 成人気管支喘息とステロイド療法, 第2回近畿薬療法研究会 (57.11).

河野博臣, 末期癌患者の心理, 神戸大学医学部, (57.2).

河野博臣, 末期癌患者のアプローチ, 神戸大学医学部 (57.2).

河野博臣, 死の臨床, 東京大学医学部 (57.2).

河野博臣, ユング心理学, 朝日カルチャー (57.4).

河野博臣, 末期癌患者に対する心身医学的アプローチ, 日本短波放送 (57.4).

河野博臣, 末期医療と心身医学, 神戸大学医学部 (57.6).

河野博臣, ガンと闘う人々, 朝日放送(59.9).

河野博臣, 担癌患者について, 神戸大学医学部 (57.11).

内 科 学 第 二 部 門

〔著書, 分担執筆〕

大島駿作: Goodpasture 症候群, 原沢道美, 吉村敬三編, 臨床呼吸器病学, p. 554~560. 朝倉書店. 東京, 1982.

泉 孝英: 15. 外因性アレルギー性肺炎, 16. 好酸球増加性肺症, 織田敏次他編, 内科学書 p. 545~551. 中山書店. 1982.

泉 孝英: 検査所見 4. 免疫学的所見. e. 気管支肺胞洗浄所見, 5. 肺生検所見, 病因論 1. 肺における免疫反応 3. 素因, 発症機序, 村尾 誠, 小林節雄監修, 泉 孝英, 河合 健, 中沢次夫編集, 過敏性肺炎, p. 38, p. 39, p. 51, p. 62. 医学書院, 1982.

泉 孝英：心サルコイドーシス，河合忠一，大国真彦他編，循環器の臨床 4. 心筋疾患・心膜疾患，p. 299～305，朝倉書店，1982.

泉 孝英：サルコイドーシスとアンジオテンシン変換酵素，内科診療 Questions & Answers, 273-2～273-3, 六法出版，1982.

泉 孝英：I. 炎症反応，6. 肉芽腫 水島 裕，塩川俊一編，炎症と抗炎症療法，p. 44～46，医歯薬出版，1982.

〔綜 説〕

大島駿作，大山口 渥：老年者肺炎の臨床-老年者肺炎の原因，老年者の免疫能，Geriatric Medicine, 20(9): 1419-1423, 1982.

大島駿作，泉 孝英：肺サルコイドーシス，診断と治療，70(3):88-90, 1982.

大島駿作，北市正則：肺疾患と免疫，Medical View 17(1):13-19, 1982.

泉 孝英，長井苑子：サルコイドーシスの心疾患，免疫と疾患，3(6):759～766, 1982.

泉 孝英： α_1 -アンチトリプシン，臨床科学，18(7):869～874, 1982.

泉 孝英：わが国におけるびまん性汎細気管支炎，日本胸部臨床，41(8):663～673, 1982.

泉 孝英，長井苑子，荏原順一，藤村直樹，平田健雄：細胞免疫と肺疾患，免疫と疾患 4(3):313-319, 1982.

杉之下俊彦，泉 孝英：肺癌症例における免疫機能不全—特に血清中の免疫抑制因子とその作用について—，医療，36(4):305-314, 1982.

〔原 著〕

泉 孝英，藤村直樹，長井苑子：サルコイドーシスにおける血清 Angiotensin-converting enzyme 値，血清 Lysozyme 量測定 of 臨床的意義—特に，予後およびステロイド剤に対する反応性—に関する検討，日胸疾会誌，20(5):570-576, 1982.

木野稔也，荏原順一，満安清孝，北市正則，本田和徳，門 政男，泉 孝英，大島駿作，上坂一郎，前田清子，黒住真史，太田 茂：味噌，醤油および酒の製造に使用されている *Aspergillus oryzae* によるアレルギー性気管支肺アスペルギス症の1例，日胸疾会誌，20(4):467～475, 1982.

木野稔也，大島駿作：気管支喘息患者における真菌 RAST—特にカンジダ RAST の意義とその測定精度の検討，臨床免疫，14(10):906～916, 1982.

大山口 渥：ツベルクリン・アレルギーに関する研究，第1編 ツベルクリン反応発現に關与する感作細胞の機能と皮内反応部位の浸潤細胞との相関々係について，結核，57(2):59～72, 1982.

大山口 渥：ツベルクリン・アレルギーに関する研究，第2編 受身伝達因子 (TF)，結核，57(4):225-232, 1982.

門 政男：呼吸器の感染防御機構に関する研究，第3編 呼吸器感染防御因子としての気管支洗浄液中液性成分に関する研究，京大胸部研紀要，15(1,2):70～76, 1982.

門 政男，泉 孝英：肺癌，Wegener 肉芽腫症を疑われた嫌気性菌肺炎の一症例，治療学，9(4):588-592, 1982.

北市正則，泉 孝英，三上理一郎他：サルコイドーシスにおける経気管支肺生検標本の組織学的所見の分類基準と胞隔炎について，日胸疾会誌，20(7):784～789, 1982.

本田和徳，満安清孝，藤村直樹，平田健雄，門 政男，泉 孝英，大島駿作，北市正則，黒住真史：肺癌症例における *Pneumocystis carinii* 肺炎について，自験例および本邦報告例の集計成績，日本胸部臨床，41(6):521-532, 1982.

本田和徳，門 政男，泉 孝英，大崎 饒他：サルコイドーシスに対する経気管支肺生検 (TBLB) の実施状況とその診断学的意義に関する検討，日胸疾会誌，20(7):777～783, 1982.

古田睦広，北市正則他：らい患者にみられた *Peliosis hepatis*，日本らい学会雑誌，51(1):22～27, 1982.

古田睦広，北市正則他：先天性結核症の2剖検例，医療，36(11):1088-1093, 1982.

中島道郎, 川合 満, 倉沢卓也, 前川暢夫, 木野稔也, 満安清孝, 大島駿作: 気管支喘息合併本態性高血圧症患者に対する β_1 選択的遮断剤 Acebutol の使用経験, 呼吸と循環, 30(8): 809~817, 1982.

竹内 実: *Propionibacterium acnes* の immunomodulation 作用に関する基礎的研究, アレルギー, 31(7): 381~389, 1982.

本間日臣, 大島駿作, 泉 孝英他: Schizophyllan (SPG) の肺癌における臨床効果—Randomized Controlled Study—肺癌, 22(5): 499~512, 1982.

藤堂義郎, 伊藤春海, 泉 孝英, 大島駿作他: 肺野末梢病変の CT ReView 像, 臨床放射線, 27(12): 1319~1326, 1982.

〔報告書, 会議録〕

Izumi, T.: Lentinan inhibition of suppressor cell activity in the murine immune reaction. Manipulation of Host Defense Mechanisms ed. by Aoki, T., Urushizaki, I., Tsubura, E. p. 45~49, Excerpta Medica International Congress Series 576., p45~49. 1981.

Izumi, T., Kikuchi, M., Mitani, M., Matsuo, T., Yamashita, T., Tsubura, E., Biological response modifying activity of Schizophyllan. International Congress Series No. 563. Immunomodulation by Microbial Products and Related Synthetic Compounds. p. 407~410, Excerpta Medica. Amsterdam 1982.

泉 孝英, 松井祐佐公: 我が国における Wegener 肉芽腫症, 特にこの肺病変の診断と治療に関する現況調査, (第1報) 昭和56年度厚生省特定疾患肉芽腫性肺疾患調査研究班研究業績 p. 170~180, 昭和57年3月.

泉 孝英: 免疫の進歩 (気管支肺胞洗浄所見), サルコイドーシスおよびその他の肉芽腫性肺疾患調査研究, 10年間の歩み—トピックを中心に—厚生省特定疾患肉芽腫性肺疾患調査研究班 p. 45~50, 1982年2月.

泉 孝英: サルコイドーシスにおける経気管支肺生検 (TBLB), サルコイドーシスおよびその他の肉芽腫性肺疾患調査研究10年間の歩み—トピックを中心に—厚生省特定疾患肉芽腫性肺疾患調査研究班 p. 69~73, 1982年2月.

泉 孝英: Wegener 肉芽腫症, サルコイドーシスおよびその他の肉芽腫性肺疾患調査研究10年間の歩み—トピックを中心に, p. 124-130 厚生省特定疾患肉芽腫性肺疾患調査研究班, 1982年2月.

泉 孝英, 木野稔也, 本間日臣他: びまん性細気管支炎全国症例調査報告—第二次 (昭和56年度) 調査報告—厚生省特定疾患間質性肺疾患調査研究班昭和56年度研究報告書 p. 2~37.

泉 孝英, 中井 準, 本田和徳, 荏原順一, 石原享介, 岩田猛郎: びまん性細気管支炎の CT 所見, 厚生省特定疾患間質性肺疾患調査研究班昭和56年度研究報告書, p. 67~69.

泉 孝英, 藤村直樹: Fibrosing alveolitis における活性化 B-cell の役割について, 厚生省特定疾患間質性肺疾患調査研究班, 昭和56年度研究報告書, p. 172~175.

Izumi, T.: Serum PFC suppressive activity and course of sarcoidosis. Proceedings of 3rd European Conference on Sarcoidosis and other Granulomatous Disorders. p. 97~101, Sremska Kamenica, Novi Sad, 1982.

泉 孝英, 近藤有好他: 肺線維症における気管支肺胞洗浄の臨床的意義, 第25回肺線維症研究会討議録. p. 3~15, 57年7月.

大山口 渥, 大島駿作: モルモット肺胞マクロファージのリンパ球幼若化抑制作用について, 昭和56年度日米医学協力計画報告書, p. 357, 1981.

平田健雄: サルコイドーシスと過敏性肺臓炎における BAL 中の T cell subsets の相違について, 昭和56年度厚生省特定疾患肉芽腫性肺疾患調査研究班研究業績, p. 62~66, 昭和57年3月.

北市正則, 泉 孝英: 病理組織レベルからみたサルコイドーシス, 慢性ペリリウム肺, 過敏性肺臓炎の肺病変の検討, 昭和56年度厚生省特定疾患肉芽腫性肺疾患調査研究班研究業績, p. 110~116, 昭和57年3月.

北市正則, 泉 孝英: 病理組織学的に診断困難な間質性肺疾患の2例, 1. 長期の経過で次第に増悪を示した giant cell granulomatosis of the lung の開胸肺生検例 2. 長期間無症状の multiple hemangiomatosis fibrosis of the lung の開胸肺生検例, 第26回肺線維症研究会討議録, p. 36~47, 昭和57年.

Mikami, R, Yamamoto, M., Hongo, O., Izumi, T., Furuiye, T., Hosoda, Y.: Clinical evaluations of SACE in sarcoidosis. Proceedings of 3rd European Conference on Sarcoidosis and other Granulomatous Disorders. p. 92~96, Sremska Kamenica, Novi Sad, 1982.

〔学会，研究会発表〕

泉 孝英，長井苑子，藤村直樹：サルコイドーシス症例におけるステロイド剤投与時の各種臨床検査値の変動所見に関する検討．第22回日本胸部疾患学会総会 (57. 4. 6).

泉 孝英：膠原病における肺病変（話題提供），第2回京都呼吸器疾患シンポジウム (57. 7. 17).

泉 孝英：びまん性汎細気管支炎，厚生省特定疾患難病の疫学調査研究班昭和57年度第1回総会特別講演 (57. 7. 24).

泉 孝英：4. 気管支肺洗浄液とアレルギー a) 細胞の subset をめぐって，第32回日本アレルギー学会総会シンポジウムⅢ，呼吸器とアレルギー (57. 10. 9).

泉 孝英：サルコイドーシス自然寛解例の臨床経過，第2回サルコイドーシス研究会総会 (57. 11. 6).

木野稔也，松井祐佐公，泉 孝英，大島駿作，今井弘行：呼吸器疾患における *Aspergillus oryzae* のアレルギー学的意義，第22回日本胸部疾患学会総会 (57. 4. 8).

木野稔也，山田安民，本田和徳，藤村直樹，松井祐佐公，泉 孝英，大島駿作，上坂一郎，前田清子，黒住真史：ムコール類似の真菌によるアレルギー性気管支肺真菌症の一例，第107回日本内科学会近畿地方会 (57. 6. 12).

木野稔也，松井祐佐公，泉 孝英，大島駿作：気管支喘息および PIE における *Aspergillus oryzae* に対する IgE 抗体と沈降抗体の検出について，第32回日本アレルギー学会総会 (57. 10. 8).

Kino, T., Matsui, Y., Oshima, S.: Reaginic sensitivity to high molecular fraction caddis fly extract in asthmatic patients. XI International Congress of Allergology and clinical Immunology, London (1982. 10. 18).

木野稔也，泉 孝英：PIE の1例—ムコール類似の真菌によるアレルギー性気管支肺真菌症について—，第9回過敏性肺炎研究会 (57. 6. 12).

木野稔也：アレルギー性気管支肺真菌症について，第23回京都呼吸器疾患懇談会 (57. 9. 9).

大山口 渥，大島駿作：肺胞マクロファージによるリンパ球幼若化抑制機構，第49回実験結核研究会 (57. 10. 6).

大山口 渥，松井祐佐公，木野稔也，泉 孝英，大島駿作：肺胞マクロファージによる T cell 幼若化抑制作用について，第32回日本アレルギー学会総会 (57. 10. 7).

門 政男，北市正則，泉 孝英，大島駿作，伊藤元彦，玉田二郎，松岡順之介：放射線治療と化学療法で縮小し，12年後に再発した mediastinal germ cell tumor の一症例，第20回日本胸部疾患学会近畿地方会 (57. 11. 27).

松井祐佐公，木野稔也，泉 孝英，大島駿作：マウスの IgE 抗体産生におけるシリカ及びマンガンのアジュバント効果について，第23回日本アレルギー学会総会 (57. 10. 7).

Matsui, Y., Kino, T., Izumi, T. and Oshima, S.: Adjuvant effect of silica and manganese on IgE antibody production and patients with silicosis. XI International Congress of Allergology and Clinical Immunology, London (1982. 10. 22).

松井祐佐公，大島駿作：肺癌症例における VP-16 の使用経験，第15回京都がん研究会 (57. 12. 24).

平田健雄：ワークショップ “Monoclonal 抗体によるリンパ球機能の解析への応用” 話題提供，第9回免疫カンファレンス (57. 3. 13).

平田健雄，荻原順一，長井苑子，藤村直樹，泉 孝英：過敏性肺臓炎の気管支肺胞洗浄液中のリンパ球の機能的研究（第2報）Tリンパ球の subset について，第22回日本胸部疾患学会総会 (57. 4. 6).

平田健雄，長井苑子，藤村直樹，佐々木義行，泉 孝英：過敏性肺臓炎とサルコイドーシスにおける気管支肺胞洗浄液中の T リンパ球 subsets の比較検討，第10回日本臨床免疫学会総会 (57. 6. 18).

Hirata, T., Nagai, S., Oshima, S., Izumi, T.: Comparative study of T-cell subsets in BAL fluid in patients with hypensensitivity pneumonitis. 14th World Congress on Diseases of the Chest and the 48th Annual Scientific Assembly (1982.10.13).

北市正則, 泉 孝英, 平田健雄, 荏原順一, 大島駿作, 佐川弥之助, 武藤 真, 前川暢夫, 戸田佳代子, 細川昌則, 竹田俊男: 間質性肺炎症例における肺癌の合併—剖検例における検討—, 第36回日本肺癌学会関西支部会 (57.2.27).

北市正則, 泉 孝英, 大島駿作, 佐川弥之助, 小原幸信, 浅本 仁, 古田睦広, 坪井裕志, 市谷迪雄: 病理組織レベルからみたサルコイドーシス, 慢性ペリリウム肺, 過敏性肺臓炎の肺病変の比較検討, 第22回日本胸部疾患学会総会 (57.4.7).

北市正則, 泉 孝英, 荏原順一, 鈴木康弘, 浅本 仁, 古田睦広: 開胸肺生検で診断された Intravascular bronchioloalveolar tumor (IVBAT) の1例, 第71回日本病理学会総会 (57.4.8).

北市正則: 肺生検の進歩, 診断困難な症例呈示, 第40回大阪呼吸器疾患談話会 (57.8.25).

北市正則, 泉 孝英, 平田健雄, 荏原順一, 大島駿作, 佐川弥之助, 前川暢夫, 戸田佳代子, 細川昌則, 竹田俊男: びまん性間質性肺炎症例における肺癌の合併について, 剖検例における検討, 第23回日本肺癌学会総会 (57.8.26).

北市正則, 黒住真史: サルコイドーシスにおける肺泡マクロファージの形態像, 第2回サルコイドーシス研究会総会 (57.11.6).

藤村直樹, 泉 孝英, 荏原順一, 長井苑子, 平田健雄, 本田和徳, 門 政男, 大島駿作: びまん性肺疾患における免疫グロブリン産生細胞 (IgSC) の増加—気管支肺泡洗浄 (BAL) リンパ球と末梢血 (PBL) リンパ球の比較—, 第22回日本胸部疾患学会総会 (57.4.7).

藤村直樹: 膠原病における肺病変 (話題提供), 第2回京都呼吸器疾患シンポジウム, (57.7.17).

藤村直樹, 普天間 健, 北市正則, 泉 孝英: 多発性ブラにて発見され, ブラ縫縮術後, 残存肺に出現して来たびまん性陰影の急速な進展のために死亡した1例, 第18回びまん性肺疾患研究会 (57.9.18).

藤村直樹: サルコイドーシスにおける BAL 中リンパ球増加の臨床的意義, 第2回サルコイドーシス研究会総会 (57.11.6).

荏原順一, 泉 孝英, 北市正則, 大島駿作, 中屋敷 博, 満安清孝, 小原幸信: 開胸肺生検にて診断された Intravascular bronchioloalveolar tumor (IVBAT) の1例, 第22回日本胸部疾患学会総会 (57.4.7).

荏原順一, 藤村直樹, 北市正則, 門 政男, 木野稔也, 泉 孝英, 大島駿作: TBLB による蛍光抗体法および血中 GBM 抗体の間接蛍光抗体法による証明にて診断した Goodpasture 症候群の一例, 第5回日本気管支研究会総会 (57.7.9).

荏原順一, 普天間 健, 松井祐佐公, 木野稔也, 泉 孝英, 大島駿作, 本田和徳: 肺疾患におけるサンドウィッチ法とZ-ゲル法とによる CEA 値の比較検討と肺癌諸因子と CEA-S 値との検討, 第23回日本肺癌学会総会 (57.8.27).

荏原順一, 泉 孝英, 長井苑子, 藤村直樹, 平田健雄, 松井祐佐公, 大島駿作, 黒住真史: 各種肺疾患におけるヒト肺泡マクロファージの活性化—IgG-Fc receptor, C₃-receptor によるロゼット形成および貪食能—に関する検討, 第32回日本アレルギー学会総会 (57.10.9).

荏原順一: サルコイドーシスにおける BAL マクロファージの意義, 第2回サルコイドーシス研究会総会 (57.11.6).

長井苑子, 泉 孝英, 荏原順一, 藤村直樹, 本田和徳, 平田健雄, 松井祐佐公, 大山口 渥, 門 政男, 木野稔也, 大島駿作: サルコイドーシス症例におけるツベルクリン反応陰性化の機序に関する検討, 第22回日本胸部疾患学会総会 (57.4.6).

長井苑子, 北市正則, 平田健雄, 木野稔也, 泉 孝英: 肺, 眼, 皮膚病変をも合併した心サルコイドーシスの1例, 第19回日本胸部疾患学会近畿地方会 (57.6.5).

長井苑子, 平田健雄, 荏原順一, 藤村直樹, 佐々木義行, 泉 孝英, 黒住真史: 肉芽腫性肺疾患 (サルコイドーシス, 慢性ペリリウム肺, 過敏性肺臓炎) 症例における BAL リンパ球, 特にT リンパ球 subpopulation,

subset に関する検討, 第32回日本アレルギー学会総会 (57.10.8).

長井苑子, 平田健雄: サルコイドーシスにおける BAL 中 OKT_4^+ cell, OKT_8^+ cell の臨床的意義, 第2回サルコイドーシス研究会総会 (57.11.6).

長井苑子: 症例呈示, 第1回京都肺感染症研究会 (57.12.2).

普天間 健, 藤村直樹, 北市正則, 大島駿作, 泉 孝英: 健康診断時に多発性ブラの状態で見られた特発性間質性肺炎の1例, 第20回日本胸部疾患学会近畿地方会 (57.11.27).

鐸田武志, 安本 均, 武曾恵理, 吉田治義, 田村忠雄, 河合忠一: ネフローゼ症候群にて発症し, 脳硬塞を合併した73歳男子におけるループス腎炎の一症例, 第12回日本腎臓病学会西部部会 (57.5.28).

鐸田武志, 武曾恵理, 吉田治義, 田村忠雄, 河合忠一, 関田憲一, 浜島義博: Plasmalymphophoresis を施行し, 血清学的, 免疫組織学的改善を確認した男性 SLE の一症例, 第18回京大臨床免疫同好会 (57.7.14).

鐸田武志, 武曾恵理, 中村保幸, 田村忠雄, 石川嘉市郎, 河合忠一, 吉田弥太郎, 吉田久博, 浜崎周次, 足達敏博: 副腎皮質ステロイドに反応せず Plasmalymphaphoresis を施行した重症 SLE の一剖検例, 第108回日本内科学会近畿地方会 (57.9.11).

鐸田武志: 自己免疫疾患における肺実質病変—臨床上の2, 3の問題点—, 第19回京大臨床免疫同好会 (57.11.20).

西村浩一, 門 政男, 北市正則, 大島駿作, 泉 孝英, 松井照夫, 加藤弘文: 生検により比較的初期例と診断されたびまん性細気管支炎の2例, 第20回日本胸部疾患学会近畿地方会 (57.11.27).

西村浩一: 症例呈示, 第1回京都肺感染症研究会 (57.12.2).

池田貞雄, 小鯖 寛, 木野稔也, 泉 孝英他: 肺クリプトコッカス症の診断—血中クリプトコッカス抗原を指標として—, 第22回日本胸部疾患学会総会 (57.4.8).

佐野 求, 加藤幹夫, 佐川弥之助, 平田健雄, 木野稔也: インコ飼育小児にみられた抗 *Aspergillus oryzae* 抗体陽性の過敏性肺臓炎の1例, 第19回日本胸部疾患学会近畿地方会 (57.6.5).

村山尚子, 武藤 真, 藤村直樹, 木野稔也他: アレルギー性気管支肺アスペルギルス症の一症例, 第107回日本内科学会近畿地方会 (57.6.12).

山組道彦, 矢野秀樹, 北市正則, 木野稔也他: Amphotericin B が奏功した孤立性肺のリプトコッカス症の一例, 第107回日本内科学会近畿地方会 (57.6.12).

河合 健, 木野稔也, 中沢次夫, 梅枝愛郎: PIE 症候群についての中間報告—胸部レ線所見について, 第10回過敏性肺炎研究会 (57.11.13).

伊藤 剛, 小原安喜子, 北市正則他: 胸腺皮質の starry sky 現象, 第71回日本病理学会総会 (57.4.8).

乾 利夫, 迫 雅夫, 北市正則他: 最近経験した喉頭—気管—結核の4例, 第107回日本内科学会近畿地方会 (57.6.12).

武藤 真, 桜井信男, 北市正則他: 慢性関節リウマチに対する金製剤使用中にびまん性陰影を呈した2例, 第17回日本びまん性肺疾患研究会 (57.7.3).

堺 幹夫, 浅本 仁, 北市正則他: 心陰影の拡大を指摘され, 約20年間にわたって入退院をくり返した1例, 第18回びまん性肺疾患研究会 (57.9.18).

村山尚子, 倉沢卓也, 北市正則, 藤村直樹他: 多クローン性高 γ グロブリン血症と胸部X線上網状影を呈した一症例, 第19回びまん性肺疾患研究会 (57.12.18).

本田和徳, 荏原順一, 藤村直樹, 平田健雄, 泉 孝英, 藤堂義郎, 伊藤春海: びまん性肺疾患の CT 像に関する検討, 第22回日本胸部疾患学会総会 (57.4.7).

〔そ の 他〕

泉 孝英, 桂 義元: 今月の焦点 “ツベリクリン反応の新しい応用—免疫機能の簡便な指標として—” (対談), *Medicina* 19(11): 2052-2058, 1982.

長井苑子: 天地人「ウサギ雑感」, *Medicina*, 19(13): 2629, 1982.

〔講演 会〕

大島駿作：肺癌について一最近の知見，日本生命昭和57年度全国検査医長研修会 (57.5.31)。

泉 孝英：1. 各種の免疫反応と臨床的意義，第12回九州アレルギー講習会 (57.1.23)。

泉 孝英：わが国のびまん性汎細気管支炎，第56回国際胸部医学会 (IACPS) 日本支部定期講演会 (57.3.6)。

泉 孝英：過敏性肺臓炎の診断，成立機序，鑑別すべき疾患，第6回京滋喘息懇話会 (57.3.27)。

泉 孝英：New diagnostic resources for chest diseases: Immunological information. 第10回箱根呼吸器討論会 (57.6.5)。

泉 孝英：細気管支炎の臨床，第5回広島大学医学部第二内科卒後研修会 (57.7.3)。

泉 孝英：肺胞洗浄液 (BAL) の免疫学 1. サルコイドーシスの BAL. 第2回免疫アレルギー懇話会 (57.8.7)。

泉 孝英：肺疾患と免疫，第194回八戸胸部疾患研究会 (57.11.26)。

講演会

Dr. H. A. Fleming (英 Cambridge 大)

Cardiac Sarcoidosis

京大会館 57.6.5.

主催 内科第二部門

Dr. Françoise Basset (仏 INSERM)

Histiocytosis X

大会議室 57.11.24.

主催 内科第二部門

胸 部 外 科 学 部 門

〔学 会 発 表〕

1. 腫 瘍

光岡明夫，金城 明，玉田二郎，瀧 俊彦，田村康一，渡部 智，清水慶彦，伊藤元彦，寺松 孝：Pulmonary blastoma の臨床的検討，第36回日本肺癌学会関西支部会 (57.2)。

岡田英彦，倉田昌彦，高 欽澤，福本仁志，早稲田則雄，加藤 譲：乳癌組織ホルモン受容体と治療成績，第5回乳癌放射線治療研究会 (57.2)。

岡田英彦，高 欽澤，下村泰造，福本仁志，倉田昌彦，藤田正憲，山田公二，人見滋樹，前里和夫，岡田賢二：縦隔内浸潤を主体にした Oat-cell carcinoma の1例，第36回日本肺癌学会関西支部会 (57.2)。

人見滋樹，前里和夫，岡田賢二，他3名：虹彩に転移を来した肺小細胞癌，第36回日本肺癌学会関西支部会 (57.2.27)。

前里和夫，人見滋樹，岡田賢二，奥田 正，鈴木庸之，岡田静雄：胸腺癌の1切除例，第36回日本肺癌学会関西支部会 (57.2.27)。

池 修，竹内吉喜，カレッド・レシャード，藤尾 彰，北野司久：肺癌患者における気管支肺胞洗浄法の検討，第36回日本肺癌学会関西支部会 (57.2)。

藤尾 彰，竹内吉喜，池 修，カレッド・レシャード，北野司久，他2名：ヌードマウスを用いた in vivo 制癌剤感受性試験を施行した骨肉腫3症例の検討，同上学会 (57.2)。

カレッド・レシャード，北野司久，藤尾 彰，池 修，竹内吉喜，他2名：癌性胸膜炎の治療成績，同上学会 (57.2)。

カレッド・レシャード, 北野司久, 池 修, 竹内吉喜: 癌性胸膜炎の治療の検討, 第36回日本肺癌学会関西地方会 (57.2).

松村理司, 立石昭三, 他: 左腕頭静脈の結紮切断を行なった悪性胸腺腫の1手術例について, 第36回肺癌学会関西支部会 (1982.2.27).

千葉 渉, 瀧 俊彦, 伊藤元彦, 横見瀬裕保, 河原崎茂孝, 中村達雄, 金城 明, 光岡明夫, 玉田二郎, 田村康一, 渡部 智, 清水慶彦, 寺松 孝: α -Fetoprotein 高値を示した肺癌の1例, 第36回日本肺癌学会関西支部会 (57.2.27).

桑原正喜, 松原義人, 畠中陸郎, 八木一之, 小鯖 覚, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄, 横川智信, 鈴木捷之, 長谷川徹: 肺癌患者における血清フェリチン, 第36回日本肺癌学会関西支部会 (57.2.27).

小鯖 覚, 八木一之, 桑原正喜, 二宮和子, 畠中陸郎, 松原義人, 船津武志, 池田貞雄: 肋骨の骨肉腫の1手術例, 第36回日本肺癌学会関西支部会 (57.2.27).

畠中陸郎, 小鯖 覚, 桑原正喜, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 乳癌の肺転移に対するタモキシフェンの効果, 第36回日本肺癌学会関西支部会 (57.2.27).

伊藤元彦: 進行肺癌の外科治療——隣接臓器合併切除の立場から, 第82回日本外科学会総会, シンポジウム (57.4).

瀧 俊彦, 玉田二郎, 金城 明, 光岡明夫, 田村康一, 渡部 智, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝: 肺小細胞癌外科治療の再検討, 第82回日本外科学会総会 (57.4).

桑原正喜, 松原義人, 畠中陸郎, 船津武志, 八木一之, 小鯖 覚, 二宮和子, 池田貞雄: 肺癌外科における縦隔鏡検査の有用性, 第82回日本外科学会総会 (57.4.2-4).

北野司久, 藤尾 彰: 肺癌に対する *in vivo* 制癌剤感受性テスト, 第1回厚生省がん研究「ヌードマウスを用いた最適抗がん剤の選択に関する研究」班会議 (57.4).

藤田正憲, 咲田倫代, 下村泰造, 山田公二, 岡田英彦, 室本 仁, 高 欽澤, 倉田昌彦: Diagnostic thoracoscopy for intrathoracic disease without demonstrable pulmonary lesion on chest film, 第3回世界肺癌学会 (57.5).

M. Ito, M. Aoki, J. Tamada, T. Teramatsu: Induction of squamous cell carcinoma with 3, 4-benzo (a) pyrene in human bronchus transplanted into nude mice. The III World Conference on Lung Cancer (57.5).

K. Reshad and M. Kitano: Pleural permeability and treatment of carcinomatous pleurisies. 第3回世界肺癌学会 (57.5).

M. Kitano, A. Fujio, K. Reshad, O. Ike, Y. Takeuchi: In Vivo Sensitivity Test of Anti-Cancer Drugs to Lung Cancer. The III World Conference on Lung Cancer (57.5).

M. Kitano, A. Fujio, K. Reshad, O. Ike, Y. Takeuchi: Clinical Evaluation of Carcinoembryonic Antigen in Lung Cancer. 同上学会 (57.5).

S. Ikeda, M. Kuwabara, Y. Matsubara, S. Kosaba, K. Ninomiya, R. Hatakenaka, and T. Funatsu: Cutaneous Delayed Hypersensitivity Reaction to the Tumor-associated Antigen in Patients with Lung Cancer, The III World Conference on Lung Cancer. (57.5).

M. Kuwabara, Y. Matsubara, K. Yagi, S. Kosaba, K. Ninomiya, R. Hatakenaka, T. Funatsu, S. Ikeda: Tennessee Antigen in Patients with Lung Cancer. The III World Conference on Lung Cancer. (57.5).

桑原正喜, 二宮和子, 松原義人, 畠中陸郎, 八木一之, 小鯖 覚, 船津武志, 池田貞雄: 肺癌末期の癌性疼痛に対するケア, 日本外科系連合会, 第7回学術集会 (57.5.15-16).

小鯖 覚, 八木一之, 桑原正喜, 二宮和子, 畠中陸郎, 松原義人, 船津武志, 池田貞雄: 縦隔の重複腫瘍の1手術例, 第131回近畿外科学会 (57.5).

池 修, 竹内吉喜, カレッド・レシャード, 藤尾 彰, 北野司久: 積極的外科治療が奏効した原発性肺癌の2症例, 第131回近畿外科学会 (57.5).

福本仁志, 高 欽澤, 岡田英彦, 倉田昌彦: 脳転移を伴った原発性肺癌, 第131回近畿外科学会 (57.5).

池 修, 北野司久, 竹内吉喜, 藤尾 彰, カレッド・レシャード: 高令者肺癌に対する limited operation. 第15回奈良外科学会 (57.4).

人見滋樹: 機械呼吸の進歩, 大阪呼吸器疾患懇話会シンポジウム (57.5.19).

人見滋樹: 私が見つけた早期肺癌, 大阪府医師会, 大阪から肺がんをなくす会合同学術講演会 シンポジウム (57.5.15).

伊藤元彦: 隣接臓器合併切除——適応拡大の可能性について, 厚生省がん研究大田班班会議 (57.6).

竹内吉喜, 北野司久, 池 修, 藤尾 彰, カレッド・レシャード: 小児の前縦隔に発生した悪性リンパ腫の1手術例, 第19回日本胸部疾患学会近畿地方会 (57.6).

藤尾 彰, 北野司久, 他4: 緊急手術を要した小児悪性縦隔腫瘍3例の検討, 第19回日本小児外科学会 (57.6).

岡田賢二, 前里和夫, 人見滋樹, 鈴木庸之, 奥田 正, 本出真二, 中西洋二: 発見後13年目に切除しえた扁平上皮癌の1例, 第25回日本胸部外科学会関西地方会 (57.6.11).

藤尾 彰, 竹内吉喜, 池 修, カレッド・レシャード, 北野司久: 粘表皮癌の1手術例, 第25回日本胸部外科学会関西地方会 (57.6).

寺松 孝: 肺癌治療の現況, 特別講演, 第25回日本胸部外科学会関西地方会 (57.6.11-12).

桑原正喜, 八木一之, 小鯖 覚, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 両側自然気胸58例の臨床的検討, 第25回日本胸部外科学会関西地方会 (57.6.11).

五十部 潤, 住友伸一, 伊東政敏, 井上律子, 小林君美: 特異な胸部レ線像を呈した肺癌切除例の2例, 同上学会 (57.6).

田村康一, 千葉 渉, 中村達雄, 光岡明夫, 瀧 俊彦, 加藤弘文, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝: 転移性肺腫瘍に対する外科療法の検討, 同上学会 (57.6).

千葉 渉, 中村達雄, 光岡明夫, 瀧 俊彦, 田村康一, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝: 縦隔奇形腫群腫瘍の検討——腫瘍マーカーを中心に——, 同上学会 (57.6.11).

池 修, 竹内吉喜, 藤尾 彰, 北野司久: 肺癌の診断における気管支肺洗浄の検討, 同上学会 (57.7).

光岡明夫, 瀧 俊彦, 田村康一, 加藤弘文, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝: 肺巨細胞癌切除例の検討, 第37回日本肺癌学会関西支部会 (57.7).

福本仁志, 高 欽澤, 倉田昌彦, 室本 仁, 藤田正憲, 山田公二, 端 知夫, 下竹克美: 肺癌の脳転移症例について, 第37回日本肺癌学会関西支部会 (57.7).

藤尾 彰, 竹内吉喜, 池 修, 北野司久: AFP 産生胎児性奇形癌肺転移の1症例, 同上学会 (57.7).

岡田賢二, 人見滋樹, 前里和夫, 石井昌生, 内藤祐子, 小野 孝, 根住直史, 鈴木庸之, 奥田 正: 気管気管支への浸潤による症状を主とした Hodgkin 病の1例, 第37回日本肺癌学会関西支部会 (57.7.31).

八木一之, 畠中陸郎, 小鯖 覚, 桑原正喜, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄, 高橋清之: 肺胸膜由来の mesothelioma の1切除例, 同上学会 (57.7.31).

小鯖 覚, 八木一之, 桑原正喜, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄, 酢谷忠夫, 藤田洋一, 高橋清之: 縦隔腫瘍(未分化癌)の1切除例, 同上学会 (57.7.31).

桑原正喜, 八木一之, 小鯖 覚, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄, 本郷隆治, 田辺正和: 肺内腫瘍に対する CT scan の臨床的検討, 同上学会 (57.7.31).

北野司久, 藤尾 彰, 他1: 長期継代移植を続けたヒト肺腫瘍の制癌剤感受性の変動, 第15回制癌剤適応研究会 (57.8).

松原義人, 桑原正喜, 池田貞雄: 肺癌患者における Tennessee Antigen 測定, 第41回日本癌学会総会 (57.8.23-25).

桑原正喜, 松原義人, 池田貞雄: 腫瘍特異抗原による肺癌患者の皮内反応, 同上学会 (57.8.23-25).

高嶋義光, 足達敏博, 翠川 修, 伊藤元彦, 寺松 孝: ヒト縦隔由来 Teratocarcinoma 培養細胞株 (HMT cells) の無血清培養と産生する蛋白質に関する研究, 同上学会 (57.8).

伊藤元彦, 高嶋義光, 光岡明夫, 玉田二郎, 瀧 俊彦, 寺松 孝: 縦隔 yolk sac carcinoma のヌードマウス移植——ヌードマウスにおける LDH-1 AFP の産生, 同上学会 (1982.8).

前里和夫, 人見滋樹, 岡田賢二: 肺癌症例に対する皮内反応 (PPD, PHA, SUPS) の意義, 第23回日本肺癌学会総会 (57.8.26).

土井紀井, 河本 健, 秋山治彦, 岡田賢二, 前里和夫, 人見滋樹: 肺癌末期に対する NALP の有用性について, 同上学会 (57.8.26).

桑原正喜, 二宮和子, 松原義人, 畠中陸郎, 八木一之, 小鯖 覚, 船津武志, 池田貞雄: 末期肺癌のターミナルケア——Brompton Mixture の効果——, 同上学会 (57.8).

二宮和子, 桑原正喜, 松原義人, 八木一之, 小鯖 覚, 畠中陸郎, 船津武志, 池田貞雄: 肺癌患者における血清フェリチン, 同上学会 (57.8).

松原義人, 二宮和子, 桑原正喜, 八木一之, 小鯖 覚, 畠中陸郎, 船津武志, 池田貞雄: 肺癌患者における血清 CEA, 同上学会 (57.8).

住友伸一, 五十部潤, 伊東政敏, 井上律子, 小林君美: 当院における肺癌切除例の検討, 同上学会 (57.8).

伊藤元彦: 肺癌に対する limited operation, 同上学会シンポジウム (1982.8).

カレット・レシャード, 和田洋巳, 神頭 徹, 乾 健二, 北野司久: 癌性胸膜炎, 自験例の治療成績, 同上学会 (57.8).

青木 稔, 光岡明夫, 瀧 俊彦, 伊藤元彦, 寺松 孝: ベンツピレン投与によるヌードマウス移植ヒト気管支の発癌実験, 同上学会 (57.8).

瀧 俊彦, 伊藤元彦, 寺松 孝: Monoclonal antibody による肺癌患者 T cell subset に関する検討——第2報, 同上学会 (57.8).

北野司久, 竹内吉喜, 池 修, 藤尾 彰, 他2: 肺腫瘍 Xeno-graft の臨床的応用, 同上学会 (57.8).

藤尾 彰, 竹内吉喜, 池 修, 北野司久: 肺癌に対する腫瘍マーカーとしての CEA の臨床的意義, 同上学会 (57.8).

倉田昌彦, 高 欽澤, 福本仁志, 室本 仁, 藤田正憲: 大細胞癌の臨床病理学的検討, 同上学会 (57.8).

Sadao Ikeda, Masayoshi Kuwabara and Yoshito Matsubara: Cutaneous Delayed Hypersensitivity Reactions to Tumor-specific Antigen in Patients with Lung Cancer, 13th International Cancer Congress (Seattle, 57, 9, 8-15).

人見滋樹: 胸部レントゲン所見と開胸所見(1), 第84回大阪臨床医会 (57.9.16).

松原義人, 二宮和子, 桑原正喜, 八木一之, 小鯖 覚, 畠中陸郎, 船津武志, 池田貞雄: 肺癌における血清 CEA の再検討, 第20回日本癌治療学会総会 (57.9.28-30).

桑原正喜, 松原義人, 畠中陸郎, 小鯖 覚, 八木一之, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 新しい人工気管による気管分岐部の再建, 同上学会 (57.9.28-30).

M. Kitano, K. Reshad, A. Fujio: In Vivo Sensitivity Test of Anti-Cancer Agents to Lung Cancer, 13th International Cancer Congress (57.9).

倉田昌彦, 西谷 裕, 生嶋宏彦: 胸腺腫の外科的治療とその予後, 第1回胸腺研究会 (57.10).

中村良雄: 高令者の胸腺腫摘出の2例, 同上学会 (57.10.13).

Abe, R., Mizuno, H., Ikushima, H., Ikehara, K.: Histocompatibility antigens and primary lung cancer, XIV World Congress on Disease of the Chest (57.10).

人見滋樹: 胸部レントゲン所見と開胸所見(2), 第85回大阪臨床医会 (57.10.30).

田村康一, 千葉 渉, 中村達雄, 光岡明夫, 瀧 俊彦, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝: 本院における転移性肺腫瘍80例の検討, 第35回日本胸部外科学会総会 (57.10).

畠中陸郎, 八木一之, 小鯖 覚, 桑原正喜, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: パンコースト腫瘍の外科治療, 同上学会シネシンポジウム (57.10).

瀧 俊彦, 光岡明夫, 田村康一, 加藤弘文, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝: 肺小細胞癌集学的治療における外科治療の意義, 同上学会シンポジウム「肺癌集学的治療における外科治療の組織型別にみた評価」 (57.10).

三宅正幸, 松井輝夫, 中村達雄, 住友伸一, 青木 稔, 高嶋義光, 光岡明夫, 瀧 俊彦, 田村康一, 加藤弘文,

清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝: 胸部における AFP 産生腫瘍の腫瘍マーカーによる鑑別, 第50回日本結核病学会, 第20回日本胸部疾患学会近畿地方会 (57. 11. 27).

前里和夫, 人見滋樹, 岡田賢二, 岡田静雄, 立花暉夫: 後縦隔発生の胸腺腫の1治験例, 第20回日本胸部疾患学会近畿地方会 (57. 11. 27).

岡田賢二, 人見滋樹, 前里和夫, 鈴木庸之, 奥田 正, 辻野博之, 倉沢卓也: 自然気胸で発症し, 手術を施行した原発性肺癌の2例, 同上学会 (57. 11. 27).

田中瑩子, 藤田正憲, 室本 仁, 倉田昌彦, 高 欽澤, 福本仁志, 相良雪子, 西村吉明: 広義の Meigs 症候群と考えられる2症例, 同上学会 (57. 11. 27).

鈴木雄二郎, 鈴木克洋, 丸井康子, 李 啓充, 武藤 真, 村山尚子, 桜井信男, 西山秀樹, 倉沢卓也, 久世文幸, 川合 満, 中西通泰, 前川暢夫, 光岡明夫: Recklinghausen 病に合併した胸壁 neurofibrosarcoma の1症例, 同上学会 (57. 11).

北野司久, 藤尾 彰: 肺癌に対する In Vivo 制癌剤感受性テスト及びその臨床的応用, 第2回厚生省がん研究「ヌードマウスを用いた最適抗がん剤の選択に関する研究」班会議 (57. 11).

瀧 俊彦, 伊藤元彦: 肺小細胞癌治療における外科治療の役割, 厚生省がん研究, 大田班班会議 (1982. 12).

2. 胸腺・免疫

光岡明夫, 瀧 俊彦, 伊藤元彦, 寺松 孝, 北野司久, 後藤光良, 杉山正敏: 免疫増強としての cyclophosphamide 投与法の基礎的検討, 第41回日本癌学会総会 (57. 8).

神頭 徹, カレッド・レシャード, 乾 健二, 岡野昌彦, 和田洋巳: 胸腺摘除術を施行した重症筋無力症の3例, 第123回静岡県外科医会 (57. 9).

3. 結 核

カレッド・レシャード, 和田洋巳, 神頭 徹, 乾 健二: 膿胸, 90例の治療成績, 第41回胸部疾患学会東海地方会 (57. 6).

住友伸一, 五十部潤, 小林君美: 最近経験した気管支結核の1例, 第59回日本結核病学会東海地方学会 (57. 6).

中村達雄, 千葉 渉, 玉田二郎, 光岡明夫, 瀧 俊彦, 田村康一, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝: 結核性気管支閉塞に続発した mucoid impaction の1例, 第19回日本胸部疾患学会近畿地方会 (57. 6).

立石昭三, 他: 癌性かと考えられた結核性胸腹膜炎, 第49回結核病学会近畿地方会 (57. 6. 5).

前里和夫, 人見滋樹, 岡田賢二, 玉田二郎: 気管・気管支結核8例の検討, 第5回日本気管支学会総会 (57. 7. 9).

千葉 渉, 渡部 智, 坂東憲司, 長谷光雄: Tracheal bronchus 分枝区域に局限した結核腫の1治験例, 第19回日本結核病学会, 第18回日本胸部疾患学会, 第3回日本気管支学会合同北陸地方会 (57. 11).

瀧 俊彦, 金城 明, 光岡明夫, 田村康一, 加藤弘文, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝: 当院における肺結核外科の現況, 第57回日本結核病学会総会 (57. 4).

4. 人工材料

小鯖 覚, 八木一之, 桑原正喜, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: Neville 型人工気管の改良, 第20回日本人工臓器学会 (57. 9. 12-14).

加藤弘文, 中村達雄, 水野 浩, 松延政一, 田村康一, 渡部 智, 清水慶彦, 寺松 孝: アルミナセラミックス人工骨——肋軟骨との反応について——, 同上学会 (1982. 9).

田村康一, 中村達雄, 水野 浩, 加藤弘文, 清水慶彦, 寺松 孝, 日野常稔: Polyvinyl Alcohol-Silica Composite の人工血管への応用——長期生体置換例の表面性状の検討——, 同上学会 (57. 9).

清水慶彦, 田村康一, 加藤弘文, 寺松 孝, 日野常稔: mesh による人工気管における創傷治癒に関する検討, 同上学会 (57. 9).

清水慶彦, 寺松 孝: 人工気管の歴史, 同上学会20周年記念パネル (57. 9).

小鯖 覚, 八木一之, 桑原正喜, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 人工気管の実験的研究, 第35回日本胸部外科学会総会 (57.10).

清水慶彦, 中村達雄, 宮本好博, 松延政一, 加藤弘文, 寺松 孝: Collagen 複合化 polypropylene mesh による人工気管の実験的並びに臨床的研究, 同上学会 (57.10).

田村康一, 水野 浩, 中村達雄, 加藤弘文, 清水慶彦, 寺松 孝, 他1名: Polyvinyl alcohol の新しいゲル化法ならびに医用材料としての基礎的研究, 第4回日本バイオマテリアル学会 (57.11).

中村達雄, 水野 浩, 田村康一, 渡部 智, 加藤弘文, 清水慶彦, 寺松 孝, 筏 義人, 玄 丞然, K. Jamshidi, 鈴木昌和: 生体内分解性高分子材料の分解と生体に及ぼす影響, 日本バイオマテリアル学会第4回学術講演会 (57.11).

加藤弘文: アルミナセラミックスと肋軟骨との反応, 第2回整形外科セラミックインプラント研究会 (57.12).

寺松 孝: 生体高分子合成高分子複合体, 第30回高分子夏季大学 (57.7.4-7).

5. 心・血 管

島本光臣, 篠崎 拓, 千原幸司, 高橋憲太郎, 井村正史, 山崎文郎, 秋山文弥: 末梢動脈閉塞症の外科治療経験, 第200回東海外科学会 (57.2).

高橋憲太郎, 篠崎 拓, 島本光臣, 千原幸司, 井村正史, 山崎文郎, 秋山文弥: 鋭的心臓外傷の2治験例, 同上学会 (57.2).

島本光臣, 篠崎 拓, 千原幸司, 高橋憲太郎, 井村正史, 山崎文郎, 秋山文弥: 大動脈弁再弁置換症例の検討, 第12回日本心臓血管外科学会総会 (57.5).

伊東政敏, 五十部 潤, 住友伸一, 井上律子, 小林君美: PS に合併した冠動脈瘤の1例, 第25回日本胸部外科学会関西地方会 (57.6).

井村正史, 篠崎 拓, 島本光臣, 千原幸司, 高橋憲太郎, 山崎文郎, 秋山文弥: 心外傷後に僧帽弁置換術を要した1例, 第25回日本胸部外科学会関西地方会 (57.6).

島本光臣, 篠崎 拓, 千原幸司, 高橋憲太郎, 井村正史, 山崎文郎, 秋山文弥: 近年のペースメーカー植込み例の成績に関する検討, 第25回日本胸部外科学会関西地方会 (57.6).

高橋憲太郎, 篠崎 拓, 島本光臣, 千原幸司, 井村正史, 山崎文郎, 秋山文弥: 開心術後に発生した気管狭窄の1例, 同上学会 (57.6).

千原幸司, 篠崎 拓, 島本光臣, 高橋憲太郎, 井村正史, 山崎文郎, 秋山文弥: 心大血管手術後の DIC に関する検討, 同上学会 (57.6).

五十部 潤, 伊東政敏, 住友伸一, 井上律子, 小林君美, 他3名: 左室瘤の1治験例, 第58回日本循環器学会東海地方会 (57.7).

山崎文郎, 篠崎 拓, 島本光臣, 千原幸司, 高橋憲太郎, 山崎文郎, 河原崎茂孝, 秋山文弥: 最近経験した胸部大動脈瘤の2例, 第123回静岡県外科医会集談会 (57.9).

井村正史, 篠崎 拓, 島本光臣, 千原幸司, 高橋憲太郎, 山崎文郎, 河原崎茂孝, 秋山文弥: 重症不整脈を頻発した左心室瘤の手術治験, 同上学会 (57.9).

伊東政敏, 五十部 潤, 住友伸一, 井上律子, 小林君美: A・C バイパス手術の経験, 第37回国立病院療養所総合医学会 (57.9).

高橋憲太郎, 篠崎 拓, 島本光臣, 千原幸司, 井村正史, 山崎文郎, 秋山文弥: 心筋保護液への Diltiazem 追加効果に関する臨床的検討, 第6回心筋保護研究会 (57.10).

千原幸司, 島本光臣, 篠崎 拓, 高橋憲太郎, 井村正史, 山崎文郎, 秋山文弥: 感染性心内膜炎の活動期手術例の検討, 第35回日本胸部外科学会総会 (57.10).

島本光臣, 篠崎 拓, 千原幸司, 高橋憲太郎, 井村正史, 山崎文郎, 秋山文弥: 手術近接期冠動脈攣縮予防を目的とした Diltiazem 持続静注法, 同上学会 (57.10).

秋山文弥: 心・大血管疾患の CT 診断, 静岡県中部医学会学術講演会 (57.11).

山崎文郎, 篠崎 拓, 島本光臣, 千原幸司, 高橋憲太郎, 井村正史, 河原崎茂孝, 秋山文弥: 食道及び右気管支への圧迫症状を主徴とした下行大動脈瘤の1例, 昭和57年度日本循環器学会東海・北陸合同地方総会 (57.11).

島本光臣, 篠崎 拓, 千原幸司, 高橋憲太郎, 山崎文郎, 井村正史, 河原崎茂孝, 秋山文弥: 弓部・下行大動脈瘤に対する大動脈クリッピング法の経験, 同上学会 (57.11).

井村正史, 篠崎 拓, 島本光臣, 千原幸司, 高橋憲太郎, 山崎文郎, 河原崎茂孝, 秋山文弥, 泰江弘文, 永尾正男: 重症不整脈発作を頻発した心室瘤の1治験, 同上学会 (57.11).

6. 一般胸部疾患・他

船津武志, 畠中陸郎, 松原義人, 小鯖 覚, 桑原正喜, 八木一之, 二宮和子, 池田貞雄: 人工気管による気管分岐部の再建, 第82回日本外科学会総会 (57.4.2-4).

松原義人, 桑原正喜, 八木一之, 小鯖 覚, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 高齢者における自然気胸の治療方針, 第22回日本胸部疾患学会総会 (57.4.6-8).

池田貞雄, 小鯖 覚, 八木一之, 桑原正喜, 二宮和子, 畠中陸郎, 松原義人, 船津武志, 塩貝国雄, 鈴木捷之, 長谷川 徹: 肺クリプトコッカス症の診断——血中クリプトコッカス抗原を指標として——, 同上学会 (57.4).

船津武志, 畠中陸郎, 桑原正喜, 小鯖 覚, 八木一之, 松原義人, 二宮和子, 池田貞雄, 高橋清之: 気管気管支軟化症の発生機序——剖検例からの検討, 同上学会 (57.4.).

小鯖 覚, 畠中陸郎, 二宮和子, 八木一之, 桑原正喜, 松原義人, 船津武志, 池田貞雄: 気管ボタンによる慢性呼吸不全の外来管理, 同上学会 (57.4.6-8).

中島道郎, 立石昭三, 他: 自然気胸の発症と気候の関係について, 同上学会 (57.4).

瀧 俊彦, 山中 晃, 千葉 渉, 光岡明夫, 青木 稔, 玉田二郎, 伊藤元彦, 寺松 孝: 気管支性囊胞壁内腺の免疫組織化学——気道分泌系の観点から, 同上学会 (57.4).

カレッド・レシャード, 北野司久, 池 修, 竹内吉喜, 藤尾 彰: 自然気胸200例の治療成績, 同上学会 (57.4).

人見滋樹, 前里和夫, 岡田賢二, 高橋憲太郎: 肝性胸水の検討, 同上学会 (57.4.6).

竹内吉喜, 北野司久, 池 修, 藤尾 彰, カレッド・レシャード: Transaxillary transverse incision による開胸法の検討, 第15回奈良外科学会 (57.4).

八木一之, 小鯖 覚, 桑原正喜, 畠中陸郎, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 高令者の Pneumnectomy, 第131回近畿外科学会 (57.5.15).

竹内吉喜, 池 修, カレッド・レシャード, 藤尾 彰, 北野司久: 外傷性血気胸の治療に関する検討, 同上学会 (57.5).

立石昭三: 存宅酸素療法について, 京都胸部医学会学術講演会 (57.5.21).

八木一之, 小鯖 覚, 桑原正喜, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 胸壁に発生した neurinoma の1例, 第25回日本胸部外科学会関西地方会 (57.6.11-12).

小鯖 覚, 八木一之, 桑原正喜, 二宮和子, 松原義人, 畠中陸郎, 船津武志, 池田貞雄: Neville 型人工気管の改良, 同上学会 (57.6.11-12).

池 修, 竹内吉喜, 藤尾 彰, 北野司久, 他1: 乳癌術后胸膜皮膚瘻に対する胸壁再建術, 同上学会 (57.6).

手塚裕章, 藤田正憲, 室本 仁, 堀井正雄, 立花和喜男, 倉田昌彦, 高橋 珍, 杉山武敏: Pepleomycin によると考えられる急速に進行した間質性肺腺維症の1剖検例, 第19回日本胸部疾患学会近畿地方会 (57.6).

光岡明夫, 横見瀬裕保, 千葉 渉, 中村達雄, 金城 明, 玉田二郎, 瀧 俊彦, 田村康一, 渡部 智, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝: CT angiography によって発見した重複上大静脈症の1症例, 同上学会 (57.6).

カレッド・レシャード, 和田洋巳, 神頭 徹, 乾 健二: 自然気胸の外科療法の検討, 第122回静岡外科医会 (57.6).

乾 健二, 神頭 徹, カレッド・レシャード, 和田洋巳: 先天性心膜欠損症の一例, 第41回日本胸部疾患学会東海地方会 (57.6).

和田洋巳, 乾 健二, 神頭 徹, カレッド・レシャード: 嫌気性菌性膿胸の2例, 東海呼吸器感染症研究会

(57.6).

カレッド・レシャード, 和田洋巳, 神頭 徹, 乾 健二: 胸膜透過性及び膿胸の手術適応について (特別報告) 同上学会 (57.6).

畠中陸郎, 船津武志, 松原義人, 八木一之, 小鯖 覚, 桑原正喜, 二宮和子, 池田貞雄: 気管・気管支軟化症——その病態と病理組織学的所見, 第5回日本気管支学会総会 (57.7.9-10).

小鯖 覚, 八木一之, 桑原正喜, 畠中陸郎, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 人工気管の研究 (Neville の人工気管の改良), 同上学会 (57.7.9-10).

桑原正喜, 畠中陸郎, 小鯖 覚, 八木一之, 二宮和子, 松原義人, 船津武志, 池田貞雄: 人工気管による気管分岐部の再建, 同上学会 (57.7.9-10).

桑原正喜, 八木一之, 小鯖 覚, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 肺内病変に対するCT scan の臨床的検討, 第49回日本結核病学会第19回日本胸部疾患学会近畿地方会 (57.6.5).

八木一之, 小鯖 覚, 桑原正喜, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 自然気胸患者の術後肺機能の検討, 同上学会 (57.6.5).

小鯖 覚, 八木一之, 桑原正喜, 畠中陸郎, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄, 高橋清之: LIP の1手術例, 同上学会 (57.6.5).

池田貞雄, 八木一之, 小鯖 覚, 桑原正喜, 二宮和子, 畠中陸郎, 松原義人, 鈴木捷之, 長谷川徹: 肺クリプトコッカス症の診断——血中クリプトコッカス抗原を指標として, 同上学会 (57.6.5).

人見滋樹, 前里和夫, 岡田賢二, 加藤幹夫: 両側気腫性巨大肺のう胞症に対する外科療法の検討, 第2回京都呼吸器シンポジウム (57.7.16).

藤川 潤, 藤田正憲, 江口 忠, 山田公二, 室本 仁, 倉田昌彦: 気管支鏡にて除去しえた, 閉塞性肺炎を伴う気管支結石の1例, 第5回日本気管支学会 (57.7).

M. Aoki, M. Itoh, T. Teramatsu, K. -I. Hirai and K. Ogawa: Peroxidase Activity in Tracheal Epithelium and Galnd of Rat in Experimental Tracheobronchitis. US-Japan Histochemistry and Cytochemistry Congress. July, 1982.

カレッド・レシャード, 和田洋巳, 神頭 徹, 乾 健二: 呼吸疾患における抗生物質の使い方について, 静岡県抗生物質研究会 (57.7).

竹内吉喜, 北野司久, 藤尾 彰, 池 修, 他1: 肺腫瘍が疑われたクリプトコッカス症の1例, 第37回肺癌学会関西地方会 (57.7).

畠中陸郎, 八木一之, 小鯖 覚, 桑原正喜, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 気管分岐部の再建術, 第23回日本肺癌学会総会 (57.8.26-27).

北野司久, 藤尾 彰: 悪性腫瘍切除術後の胸壁欠損に対する胸壁再建術の検討, 第20回日本癌治療学会 (57.9).

松本守海, 山本博昭, 彭作 進: 自然気胸の治験例について (両側同時手術例を中心にして), 第31回共済医学会総会 (57.10).

伊藤元彦: 肺疾患の手術適応, 日本胸部外科学会卒後教育セミナー (57.10).

光岡明夫, 瀧 俊彦, 田村康一, 加藤弘文, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝, 北野司久, 石井松溪, 藤堂義郎: 縦隔病変に対する gas contracted CT, 第35回日本胸部外科学会総会 (57.10).

桑原正喜, 松原義人, 小鯖 覚, 八木一之, 二宮和子, 畠中陸郎, 船津武志, 池田貞雄: 胸壁再建法の検討. 同上学会 (57.10.13).

乾 健二, 神頭 徹, 和田洋巳, カレッド・レシャード: 慢性呼吸器疾患における S-CMC の使用経験, 静岡県気管支研究会 (57.10).

岡野昌彦, 乾 健二, 神頭 徹, カレッド・レシャード, 和田洋巳: 経過中に好酸球増多を示したびまん性肺疾患の1例, びまん性肺疾患研究会 (57.10).

桑原正喜, 松原義人, 畠中陸郎, 八木一之, 小鯖 覚, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 自然気胸の手術, 第44回日本臨床外科医学会総会 (57.11.12~14).

小鯖 覚, 八木一之, 桑原正喜, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 人工気管による気管

気管分岐部の再建, 同上学会 (57.11.12-14).

長谷光雄, 千葉 渉, 坂東憲司, 渡部 智: 低肺機能者に合併した肺胞蛋白症の1例, 第29回日本結核病学会第18回日本胸部疾患学会, 第3回日本気管支学会合同北陸地方会 (57.11).

乾 健二, 神頭 徹, 高橋 衛, カレッド・レシャード, 和田洋巳: 胸膜中皮腫の3例, 第41回中部肺癌学会 (57.11).

五十部 潤, 糸井和美, 伊東政敏, 井上律子, 小林 君美: 巨大嚢胞手術の経験, 第42回日本胸部疾患学会東海地方学会 (57.11).

松本正廣, 岡野昌彦, 乾 健二, 神頭 徹, カレッド・レシャード, 和田洋巳: 薬剤による好酸球性肺炎の2症例, 同上学会 (57.11).

岡野昌彦, 乾 健二, 神頭 徹, カレッド・レシャード, 和田洋巳: 典型的夏型過敏性肺炎として発症し, 2年目の再発にて増悪した1例, 同上学会 (57.11).

中村達雄, 糸井和美, 松井輝夫, 三宅正幸, 住友伸一, 光岡明夫, 瀧 俊彦, 田村康一, 加藤弘文, 清水慶彦, 伊藤元彦, 李 勝弘, 浅井信明, 佐川弥之助: 外傷による気管支離断の気管支再建による2治験例, 第132回近畿外科学会 (57.11).

小鯖 覚, 中村良雄, 八木一之, 桑原正喜, 畠中陸郎, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 気管支鏡下 Nd-YAG LASER の使用経験, 同上学会 (57.11.20).

中村良雄, 八木一之, 小鯖 覚, 桑原 覚, 桑原正喜, 畠中陸郎, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 呼吸器科領域におけるフィブリン糊の応用, 同上学会 (57.11.20).

松井輝夫, 三宅正幸, 中村達雄, 住友伸一, 青木 稔, 光岡明夫, 瀧 俊彦, 田村康一, 加藤弘文, 清水慶彦, 伊藤元彦, 寺松 孝, 琴浦良彦: 肋骨にみられた aneurysmal bone cyst の1症例, 第50回日本結核病学会, 第20回日本胸部疾患学会近畿地方会 (57.11.27).

池田貞雄, 池 修, 中村良雄, 小鯖 覚, 二宮和子, 桑原正喜, 畠中陸郎, 松原義人, 船津武志: 巨大肺嚢胞症の両側一期手術について, 同上学会 (57.11.27).

中村良雄, 池 修, 小鯖 覚, 桑原正喜, 畠中陸郎, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 若年者肺クリプトコッカス症の1切除例, 同上学会 (57.11.27).

小鯖 覚, 池 修, 中村良雄, 桑原正喜, 畠中陸郎, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄, 高橋清之: 縦隔リンパ管腫の1切除例, 同上学会 (57.11.27).

桑原正喜, 中村良雄, 池 修, 小鯖 覚, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄, 高橋清之: 縦隔検査で診断された Neurinoma の1例, 同上学会 (57.11.27).

乾 健二, 神頭 徹, 高橋 衛, カレッド・レシャード, 和田洋巳: 胸膜中皮腫に対する外科療法の検討, 静岡県外科医会第124回集談会 (57.12).

〔著 書〕

岡田慶夫, 伊藤元彦: 再発癌——肺癌, 臨床腫瘍学, p. 362. 朝倉書店, 1982.

瀧 俊彦, 伊藤元彦: 肺小細胞癌の治療, 外科 Mook「肺癌」金原書店, 1982.

伊藤元彦, 松延政一: CT スキャンの胸部疾患への応用, 金上晴夫編, 新しい検査法からみた呼吸器疾患の診断, 克誠堂, 1982.

人見滋樹: 胸膜腫瘍 Pleural tumor. 「今日の治療指針」医学書院, 274-275, 1982.

甲斐隆義, 人見滋樹, 船津武志, 池田貞雄: 胸部X線読影のポイント, 金芳堂, 245頁, 1982.

山本博昭, 寺松 孝: 呼吸器の手術「肺結核空洞の切開術」p. 268-288, 現代外科手術学大系8, 中山書店, 1981.

寺松 孝: 肺の疾患「気管支拡張症」p. 225~324, 臨床医学示説, 第2巻, 外科④A, 近代医学出版社, 1982.

〔誌 上 発 表〕

1. 腫 瘍

伊藤元彦, 瀧 俊彦: 肺がんの定型的手術, 外科治療47(1), 1982. 1.

伊藤元彦, 寺松 孝: 進行肺癌外科治療の限界, 外科治療47(6), 1982. 12.

松島敏春, 加藤弘文, 伊藤元彦, 寺松 孝: 喀血患者で隆起性病変を呈した扁平上皮異形成と思われる1例, 気管支学, 4(1), 1982. 5.

Motohiko Ito, Jiro Tamada, Minoru Aoki: Induction of squamous cell carcinoma with 3, 4-benzo (a) pyrene in the human bronchus transplanted into nude mice, Gann 73, 141-146, 1982. 2.

寺松 孝: 手術適応と術式の選択《前縦隔の悪性腫瘍》外科, 44(10): 992, 1982. 10.

カレッド・レシャード: 胸膜透過性の検討, 京大胸部研紀要, 15: (1, 2), 1982.

和田洋巳, 寺松 孝: 縦隔腫瘍全国集計, (1975. 7. ~1979. 5), 日本胸部外科学会雑誌, 30: 374, 1982.

和田洋巳, 松延政一, 伊藤元彦, 寺松 孝: 悪性縦隔腫瘍全国集計, 胸部外科, 35: 364, 1982.

カレッド・レシャード, 北野司久, 他 9: 石綿肺合併肺癌の1手術例——自験例とその文献的考察——. 肺癌 22: 181-189, 1982.

北野司久, カレッド・レシャード, 藤尾 彰, 光岡明夫, 他 3: 肺転移を伴った悪性血管外支細胞腫の Nu-マウス皮下における増殖能と抗癌剤感受性テスト, 肺癌: 475-480, 1982.

大田満夫, 伊藤元彦, 他 7: 切除された肺小細胞癌の治療成績, 肺癌22(4), 1982. 9.

カレッド・レシャード, 北野司久, 藤尾 彰, 池 修, 竹内吉喜, 望月吉郎, 網谷良一, 種田和清, 岩田猛邦, 人見滋樹, 前里和夫, 高橋憲太郎: 癌性胸膜炎に対する治療成績および抗癌剤の胸膜透過性, 肺癌22(2), 1982.

和田洋巳, 神頭 徹, 他: 心嚢腔内に転移を来し, 大量心嚢水貯留により発見された胸腺腫の1例, 日本胸部臨床, 41: 171, 1982.

和田洋巳, 松延政一: 両側肺に巨大転移巣を認めた, 結腸癌の手術例, 日本胸部臨床, 41: 246, 1982.

北野司久, カレッド・レシャード, 藤尾 彰, 光岡明夫, 他 1: 肺転移を伴った悪性血管外皮細胞腫の1例——その臨床像と腫瘍増殖速度——, 日本胸部臨床, 41: 252-257, 1982.

池 修, 北野司久, カレッド・レシャード, 青木 稔, 伊藤元彦, 他 2: 嚢胞を伴った胸腺脂肪腫の2手術例, 臨床胸部外科 2: 573-578, 1982.

カレッド・レシャード, 水野 浩, 竹内吉喜, 池 修, 藤尾 彰, 北野司久, 種田和清, 市島国雄, 小橋陽一郎, 西和田誠: 後縦隔に発生した褐色細胞腫の1例, 日本胸部疾患学会誌, 20: 5, 1982.

伊藤元彦: 肺がん手術療法の実況と問題点, 総合臨床31(6), 1982. 6.

北野司久, 藤尾 彰, 池 修, 竹内吉喜, 他 1: Nu-マウスを用いる制癌剤感受性検査法 (第5報), 最新医学37: 1435-1438, 1982.

伊藤元彦, 金城 明, 光岡明夫, 玉田二郎, 瀧 俊彦, 田村康一, 渡部 智, 清水慶彦, 寺松 孝: 進行肺癌の外科治療——隣接臓器合併切除の立場から, 日本外科学会雑誌83(9): 975, 1982. 9.

北野司久, 長瀬千秋: 培養人癌細胞を用いた感受性テスト——Microcolonies Inhibition Test を中心に——. 癌と化学療法 9: 590-598, 1982.

Kitano M., Mitsuoka A., Fujio A., 他 1: Hemangiopericytoma: Proliferative and Drug-Sensitivity Studies of Tumor Xenografts from Primary and Metastatic Lesions. J. Exp. Clin. Cancer Res. 1: 5-10, 1982.

伊藤元彦: 肺癌に対する小範囲切除, 臨床医 8(11), 1982. 11.

北野司久, 藤尾 彰, 高嶋義光, 光岡明夫, 池 修, カレッド・レシャード, 竹内吉喜, 他 2: 集学的治療が奏効した悪性黒色腫の1例, 癌の臨床28: 1097-1101, 1982.

牧本一男, 清水慶彦, 金城 明, 田村康一, 他 4 名: 胸骨, 縦隔に伸展した甲状腺癌症例に対する治療, 耳鼻臨床75: 4; 963, 1982 (昭57)

2. 胸腺, 免疫

寺松 孝: 肺移植——この1年の進歩, 人工臓器11(5), 901, 1982.

3. 結 核

和田洋巳, 神頭 徹, 乾 健二, カレッド・レシャード: 難治性胸壁瘻を有する高齢者結核性慢性膿胸の1治療経験例, 日本胸部臨床, 41: 646, 1982.

4. 人工臓器

村地 孝, 寺松 孝, 渡部 智, 遠藤治郎, 田畑勝好, 阪口勝亮, 日野常稔: 固定化酵素の生体内運命, 医用高分子材料, 医用高分子材料編集委員会編, 学会出版センター, 東京, 1981: 219.

H. Kato, H. Mizuno, K. Tamura, S. Watanabe, Y. Shimizu, T. Teramatsu: Experimental study on artificial ceramic bone for ribs and sternum. Artificial Organs, Vol. 5 (Suppl), 493-496, 1981.

田村康一, 中村達雄, 水野 浩, 加藤弘文, 清水慶彦, 寺松 孝, 日野常稔: Polyvinyl Alcohol-Silica Composite の人工血管への応用——長期生体置換例の表面性状の検討——, 日本人工臓器学会誌, in press.

田村康一, 水野 浩, 中村達雄, 加藤弘文, 清水慶彦, 寺松 孝, 他1名: Polyvinyl alcohol の新しいゲル化法ならびに医用材料としての基礎的研究. 第4回日本バイオマテリアル学会大会論文集.

渡部 智, 中村達雄, 清水慶彦, 寺松 孝, 日野常稔: 抗菌性医用材料としての抗生物質混合化——コラーゲン合成高分子複合体の作製, 人工臓器 10(6): 985, 1981.

5. 心血管

秋山文弥: 日本に於ける心臓外科の現況. 全国自治体病院協議会雑誌15: 1, 1982.

島本光臣, 篠崎 拓, 千原幸司, 高橋憲太郎, 井村正史, 山崎文郎, 秋山文弥: 大動脈弁再弁置換症例の検討. 日本心臓血管外科学会雑誌12: 99, 1982.

島本光臣, 篠崎 拓, 千原幸司, 高橋憲太郎, 井村正史, 山崎文郎, 河原崎茂孝, 秋山文弥: Coronary Arterio-Cameral Fistula の2例, 胸部外科35: 891, 1982.

千原幸司, 篠崎 拓, 島本光臣, 高橋憲太郎, 井村正史, 山崎文郎, 秋山文弥: 開心術後に留置した Flow-directed balloon catheter による肺梗塞・膿胸の1治療例, 日本胸部外科学会雑誌30: 1725, 1982.

千原幸司, 篠崎 拓, 島本光臣, 高橋憲太郎, 井村正史, 山崎文郎, 秋山文弥, 滝沢明憲, 永尾正男, 表 信吾: 断裂カテーテルの血管内遺残. 外科診療. 24: 97, 1982.

6. 一般胸部疾患

和田洋巳, 神頭 徹, 乾 健二, 他: 胸部外科手術麻酔における HFV (High Frequency Ventilation) の応用, 日本外科学会雑誌, 83: 60, 1982.

北野司久, カレッド・レシャード: 胸郭変形に対する外科療法の研究, 日本胸部外科学会雑誌30: 166-168, 1982.

光岡明夫, 北野司久: 漏斗胸の外科療法(胸骨翻転術)——胸骨短縮法・胸骨内固定法の適用——, 手術36(3), 269, 1982.

池田貞雄, 畠中陸郎, 松原義人, 小鯖 覚, 八木一之, 宮本好博, 桑原正喜, 二宮和子, 船津武志: 人工気管による気管分岐部の再建, 日本胸部外科学会雑誌, 第30巻, 第4号.

伊藤元彦, 瀧 俊彦, 光岡明夫, 田村康一, 清水慶彦, 寺松 孝: 気管再建, 臨床胸部外科 2(4), 1982. 7.

志熊 肅, 横山和敏, 森本英夫, 垣内成泰, 堀田洋一, 武内敦郎, 岡田英彦, 下村泰造, 倉田昌彦: 傍食道型縦隔気管支性嚢腫の2手術治療例, 胸部外科, 35: 203, 1982.

二宮和子, 松原義人, 池田貞雄, 八木一之, 小鯖 覚, 宮本好博, 桑原正喜, 畠中陸郎, 船津武志: 胸膜炎における胸膜針生検の意義, 日本胸部臨床, 第41巻, 第12号.

北野司久, 竹内吉喜, 池 修, 光岡明夫, カレッド・レシャード, 藤尾 彰, 他1: 手術後に確定診断がついた陳旧性気管内異物の1治療例, 胸部外科, 35: 316-319, 1982.

北野司久, 光岡明夫, 宮本好博, 藤尾 彰, カレッド・レシャード: Poland 症候群に対して胸骨翻転術を応用した1手術治療例, 胸部外科35: 946-950, 1982.

清水慶彦, 寺松 孝: 気管気管支形成術, 外科診療, 24(3), 303, 1982.

寺松 孝：右上葉切除における私の方法，外科診療24(11)，1413，1982.

本田和徳，人見滋樹，他29名：サルコイドーシスに対する経気管支肺生検（TBLB）の実施状況とその診断学的意義に関する検討，日胸疾会誌20(7)，777-783，57.

北野司久，藤尾 彰：漏斗胸に対する治療——特に腹直筋有茎性胸骨翻転術について——，小児外科14：1157-1165，1982.

高橋憲太郎，前里和夫，人見滋樹：肺塞栓症の3例，日本胸部臨床，40(12)，1030-1039，1982.

瀧 俊彦，小鯖 覚，宮本好博，桑原正喜，畠中陸郎，松原義人，二宮和子，船津武志，池田貞雄：胸部X線写真における正常気管内径の計測——気管気管支軟化症の診断基準のために，日本胸部疾患学会雑誌，第20巻，12号（1982.12）.

松原義人，畠中陸郎，船津武志，池田貞雄：人工気管による気管再建術，臨床外科 Year Book 1982.

船津武志，小鯖 覚，八木一之，桑原正喜，畠中陸郎，松原義人，二宮和子，池田貞雄：気管気管支軟化症 Diagnosis and Pathogenesis of the Acquired Tracheobronchomalacia. 気管支学，第4巻第2号.

病 理 学 部 門

1. 肉芽・癌研究グループ

〔学 会 発 表〕

橋本研二，木下和之，吉田竜太郎，安平公夫：発癌経過中のマウス血清中の DNA-binding protein (3) 精製とガン細胞増殖抑制について，日本癌学会第41回総会講演（昭和57.8）.

吉田竜太郎，滝川 修，安井浩明，早石 修，安平公夫：癌細胞の増殖抑制と酸素添加酵素の誘導，日本生化学会第55回総会講演（昭和57.10）.

〔誌 上 発 表〕

Hamamoto, Y., Kinoshita, K., Hashimoto, K., Matsushita, T. and Yasuhira, K.: Experimental production of pulmonary granulomas. II. Age dependency and immune modulation of granuloma production, Brit. J. exp. Path. 63: 506-513 (1982).

Hamamoto, Y., Hashimoto, K., Baba, M., Kinoshita, K. and Yasuhira, K.: Experimental production of pulmonary granulomas, III. Plasma cell granuloma, Brit. J. exp. Path. 64 in press).

Hamamoto, Y., Kinoshita, K., Matsushita, T., Kogishi, K. and Yasuhira, K.: Experimental production of pulmonary granulomas, IV, Eosinophilic granuloma, Brit. J. exp. Path. (in press).

Kanazawa, S., Morikawa, S., Harada, T., Yasuhira, K., Matsubara, Y., Ikeda, S., Soeda, S. and Fujimura, M.: Carcinoembryonic antigen producing cultured cell lines enable detection of autoantibodies in sera from patients with gastro-intestinal cancer, Cancer 50: 107-114 (1982).

Hashimoto, K., Suzuki, Y., Kinoshita, K., Takahashi, G. and Yasuhira, K.: Microsomal hydroxylation of 3-methylcholanthrene: Analysis by computerized GC-MS system. J. Chromat. 260: 429-438 (1983)

2. 結合組織・老化研究グループ

〔学 会 発 表〕

石井正治，山室隆夫，琴浦良彦，竹田俊男：骨・軟部悪性腫瘍に対する制癌剤感受性試験——Radioisotope による Cell Viability の測定——，第55回日本整形外科学会総会（昭57.3）.

松村敦子，樋口京一，橋本研二，細川昌則，安平公夫，竹田俊男，清水克時：老化促進モデルマウス（SAM）

に関する実験的研究——V. 新しいアミロイド ASs について, 第71回日本病理学会総会 (昭57.4).

細川昌則, 樋口京一, 竹下修史, 清水克時, 本間篤子, 戸田佳代子, 入野美香, 笠井隆一, 竹田俊男: 老化促進モデルマウス (SAM) に関する実験的研究VI. 老化度判定基準——Grading Score System——について, 第71回日本病理学会総会 (昭57.4).

樋口京一, 松村敦子, 橋本研二, 竹下修史, 本間篤子, 細川昌則, 安平公夫, 竹田俊男: 老化促進モデルマウス (SAM) に関する実験的研究VII. 新しいアミロイド蛋白 (ASs) の免疫組織学的解析, 第71回日本病理学会総会 (昭57.4).

清水克時, 石井正治, 笠井隆一, 山室隆夫, 樋口京一, 松村敦子, 竹下修史, 細川昌則, 竹田俊男: 老化促進モデルマウス (SAM) に関する実験的研究VIII. 関節アミロイド沈着について, 第71回日本病理学会総会 (昭57.4).

入野美香, 竹田俊男, 安平公夫: 銅と神経系発育II: Penicillamine による銅欠乏マウスにおける電子顕微鏡的研究, 第71回日本病理学会総会 (昭57.4).

清水克時, 奥村秀雄, 山室隆夫, 竹田俊男: 関節の加齢とアミロイド沈着一術中切除標本の組織学的検討, 第26回日本リウマチ学会総会 (昭57.5).

Takeda, T., Ozasa, H., Hosokawa, M. and Ishii, M.: Response of connective tissue to sex steroids. International Workshop of Investigative Dermatology, Kyoto, 1982. 6.

樋口京一, 松村敦子, 本間篤子, 竹下修史, 橋本研二, 細川昌則, 安平公夫, 竹田俊男: 「老化促進モデルマウス (SAM) にみる老化アミロイド (ASSAM) の免疫組織化学的研究, 日本基礎老化学会第6回大会 (昭57.7).

細川昌則, 笠井隆一, 樋口京一, 清水克時, 竹下修史, 本間篤子, 入野美香, 戸田佳代子, 松村敦子, 松下睦, 竹田俊男: 「老化促進モデルマウス (SAM)」の老化度判定基準——Grading Score System——について (第II報), 日本基礎老化学会第6回大会 (昭57.7).

樋口京一, 松村敦子, 本間篤子, 橋本研二, 細川昌則, 安平公夫, 竹田俊男: 正常マウス血清中にみられる老化アミロイド (ASs) 共通抗原性物質の生体内局在について, 日本基礎老化学会第6回大会 (昭57.7).

戸田佳代子, 松村敦子, 細川昌則, 浜本 肇, 清水克時, 石井正治, 竹田俊男: Werner 症候群患者にみられたムコ多糖異常, 第14回日本結合組織学会総会 (昭57.7).

樋口京一, 松村敦子, 本間篤子, 橋本研二, 清水克時, 細川昌則, 安平公夫, 竹田俊男: 正常マウス血清中にみられる老化アミロイド (ASs) 共通抗原性成分の単離と同定, 第14回日本結合組織学会総会 (昭57.7).

竹下修史, 樋口京一, 松村敦子, 入野美香, 戸田佳代子, 竹田俊男: マウス老化アミロイド (ASs) 共通抗原性物質の生体内局在について, 第14回日本結合組織学会総会 (昭57.7).

樋口京一, 松村敦子, 橋本研二, 本間篤子, 細川昌則, 安平公夫, 竹田俊男: 老化促進モデルマウスに沈着する新しいアミロイド蛋白 (ASSAM) について, 第55回日本生化学会大会 (昭57.9).

竹田俊男: 老化促進モデルマウス (SAM) にみる皮膚変化, 特に老化アミロイド (ASSAM) 沈着について, 第7回日本研究皮膚科学会 (招待講演) (昭57.9).

〔誌 上 発 表〕

吉田耕治, 宇都宮隆史, 山口省之, 森山英俊, 細川昌則, 冨元一彦, 南 弘: 同胞に発症した Testicular Feminization Syndrome の2例に関する内分泌学的検討: 産婦人科の実験30: 221-230 (1981).

桜井信男, 板東憲司, 西山秀樹, 倉沢卓也, 久世文幸, 川合 満, 中西通泰, 前川暢夫, 細川昌則: アレルギー性肉芽腫症・血管炎 (Churg-Strauss 症候群) の1例: 京大胸部研紀要15: 94-105 (1982).

石井正治, 山室隆夫, 竹田俊男: 骨・軟部悪性腫瘍に対する定量制癌剤感受性試験 Radio isotope による Cell Viability の測定 : 日整会誌56: 293-304 (1982).

濱上 洋, 四方実彦, 山室隆夫, 竹田俊男: 牛胎児頸椎後縦靱帯発生の形態学的観察: 整形外科基礎科学 9: 333-338 (1982).

Ozasa, H., Tominaga, T., Nishimura, T. and Takeda, T.: Dissociation of the 5 α -reductase activity from

the specific dihydrotestosterone binding activity in cultured human fibroblasts, *Endokrinologie* 78: 115-117 (1981).

Shimizu, K., Higuchi, K., Yamamuro, T., Ohtsuji, T. and Takeda, T.: Increase in pyridinoline cross-linking of mouse bone collagen induced by estrogen, *Experientia* 38: 864-865 (1982).

Hamamoto, H., Ueba, Y., Sudo, Y., Sanada, H., Yamamuro, T. and Takeda, T.: Dupuytren's contracture: Morphological and biochemical changes in the palmar aponeurosis, *The Hand* 14: 237-247 (1982).

Irino, M., Yasuhira, K. and Tadedo, T.: D-Penicillamine toxicity in mice. II. Concentrations of Cu, Zn, and Fe related to development of toxicity, *Toxicol. Appl. Pharmacol.* 63: 1-12 (1982).

Irino, M., Sanada, H., Tashiro, S., Yasuhira, K. and Tadedo, T.: D-Penicillamine toxicity in mice. III. Pathological study of offspring of penicillamine-fed pregnant and lactating mice, *Toxicol. Appl. Pharmacol.* 65: 273-285 (1982).

Takeshita, S., Hosokawa, M., Irino, M., Higuchi, K., Shimizu, K., Yasuhira, K. and Tadedo, T.: Spontaneous age-associated amyloidosis in Senescence Accelerated Mouse (SAM), *Mech. Ageing Dev.* 20: 13-23 (1982).

Shimizu, K., Ishii, M., Yamamuro, T., Takeshita, S., Hosokawa, M. and Takeda, T.: Amyloid deposition in intervertebral discs of senescence-accelerated mouse, *Arth. Rheum.* 25: 710-712 (1982).

Matsumura, A., Higuchi, K., Shimizu, K., Hosokawa, M., Hashimoto, K., Yasuhira, K. and Takeda, T.: Characterization of a novel amyloid fibril protein (ASSAM) isolated from senescence-accelerated mice, *Lab. Invest.* 47: 270-275 (1982).

〔著 書〕

竹田俊男：コラーゲン代謝と内分泌，編集，永井 裕，藤本大三郎，コラーゲン代謝と疾患：155-170，講談社，昭57.

竹田俊男：膠原線維の化学と機能，編集，水島 裕，塩川優一，炎症と抗炎症療法：64-70，医歯薬出版，昭57.

竹田俊男：自然発症アミロイド症（マウス），編集，川俣順一，松下 宏，疾患モデル動物ハンドブック No. 2: 323-329，医歯薬出版，昭57.

竹田俊男：遺伝性老化促進（マウス）．編集，川俣順一，松下 宏，疾患モデル動物ハンドブック No. 2: 400-406，医歯薬出版，昭57.

3. 肺表面活性物質研究グループ

〔学 会 発 表〕

- (1) 鈴木康弘・中井栄一・大川欣一：再構成肺表面活性物質における脂質の相互作用第71回日本病理学会総会（57年4月）
- (2) 大川欣一・鈴木康弘，金井美晴，引間啓祐：オキシダーゼ作用にもとづくカタラーゼの新しい細胞化学的証明法に関する研究(1)光学顕微鏡レベルで，第71回日本病理学会総会（57年4月）
- (3) 大川欣一，鈴木康弘，金井美晴，引間啓祐：3,3',4,4'-Tetraaminobenzophenon (TAB)——ペルオキシダーゼの細胞化学的証明のための新しい水素供与体，第71回日本病理学会総会（57年4月・東京）
- (4) 大川欣一，引間啓祐，鈴木康弘，進藤備昌：ナジ反応に関する研究（第4報）M-ナジ反応におけるホルマリン固定の意義について，第71回日本病理学会総会（57年4月・東京）
- (5) 鈴木康弘，中井栄一：磷脂質ならびに表面活性物質由来アポプロテインより再構成した脂質-蛋白複合体の表面活性作用に関する研究，第15回日本界面医学会（57年11月）

〔誌 上 発 表〕

Shigematsu, Y., Sudo, M., Momoi, T., Inoue, Y., Suzuki, Y., and Kameyama, J.: changing plasma and urinary organic acid levels in a patient with isovaleric acidemia during an attack. *Pediatric Research* 16: 771-775 (1982).

Suzuki, Y., Nakai, E. and Ohkawa, K.: Experimental studies on the pulmonary surfactant. Reconstitution of surface-active material. *J. Lipid Res.* 23: 53-61 (1982).

Suzuki, Y.: Effect of protein, cholesterol and phosphatidylglycerol on the surface activity of the lipid-protein complex reconstituted from pig pulmonary surfactant. *J. Lipid Res.* 23: 62-69 (1982).

4. 臨床病理グループ

〔学 会 発 表〕

北市政則, 泉 孝英, 荏原順一, 鈴木康弘, 古田睦広, 浅本 仁: 開胸肺生検で診断された Intravascular Bronchioloalveolar tumor (IVBAT) の一例, 日本病理学会第71回総会 (昭和57年4月)

5. 博士論文抄録

Kinoshita, K. *et al.*: Gas chromatographic-mass spectrometric analysis of 3-methylcholanthrene metabolism *in vivo*, *Gann* 71: 181-189 (1980).

in vivo での発癌剤の代謝を, 始めて GC-MS system で検索した世界初の報告である。3-MC 投与後のラット, マウスの臓器, 胆汁, 大小便中の, 3-MC 代謝産物が, コンピューター付きの GC-MS で調べられた。得られた成績の多くは, すでに従来流体クロマト等で知られていたものと同じで, 1ハイドロキシ体5個, 2ハイドロキシ体3個が同定された。特筆に価するのはこの GC-MS 法により, 3個の3ハイドロキシ体が示唆されたことで, 後に *in vitro* の代謝実験で, 13個の3ハイドロキシ体が指摘されることになった有力な刺激となったものである。なお本論文で, 代謝産物中に強力な発癌性を期待して, 発癌実験も行われ, その成績が掲載されているが, これは今後の課題であろう。

Hamamoto, Y. *et al.*: Experimental production of pulmonary granulomas. I. Immune granulomas induced by chemically modified cell walls and their constituents. *Brit. J. exp. Path.* 62: 259-269 (1981).

細菌に対する組織の反応は, 菌の外毒素によって引き起される場合の他, 菌細胞壁の化学成分に対するものである場合が多い。この実験では, 結核菌細胞壁成分を例にとり, その成分による免疫性, 非免疫性の反応が, 炎症に最も敏感な肺という組織で検討された。結論的に言へば, 細胞壁多糖体は Arthus 抗原性をもち, 感作動物に組織壊死, 空洞形成を惹起する。これに対し, ロウD画分は, 広範な類上皮細胞巣を惹起し, この病巣は非壊死性である。細胞壁には両抗原が分布し, 菌をアセチル化するときは多糖体抗原性が消失して, 病巣はロウD型となり, 死菌体を脱脂するときはロウD型反応が落ちて, 病巣は見事な多房性空洞となり, 空洞壁には Arthus 反応時の肉芽を認めるようになる。

Hashimoto, K. *et al.*: Microsomal hydroxylation of 3-methylcholanthrene, Analysis by computerized GC-MS system. *J. Chromat.* 260: 429-438(1983).

β -naphthoflavon で aryl hydrocarbon hydroxylase を誘導したマウス肝 microsome を使用し, これに 3-methylcholanthrene (MC) と NADPH を添加し, 一定条件下に起る MC 代謝物の産生を, GC-MS によって解析した。方法は, 先に *in vivo* の代謝実験で用いられたものと同様である。代謝物を抽出精製し, シリル化した後に GC-MS にかける。*in vivo* の実験に現れた5個の (OH)₁-MC, 3個の (OH)₂-MC の他に, (OH)₃-MC と考えられるもの13個を検出することが出来た。先の実験で (OH)₃-MC の疑われた, m/e 354 の fragment ion をもつ3個のピークは, この *in vitro* 実験でみられた13個の (OH)₃-MC に含まれている。(OH)₄-MC, (OH)₅-MC 等は検出しなかった。この *in vitro* 実験は, 反応液中に conjugating agent を含有しないので, このような多数の水酸化体が検出されたものと思われる。

石井正治, 他: 骨軟部悪性腫瘍に対する定量的制癌剤感受性試験——Radioisotope による Cell Viability の測定——, 日整会誌, 56, 293~304(1982).

生検により得た骨・軟部悪性腫瘍の初代培養細胞と radioisotope を用いて, 液体シンチレーション法による定量的制癌剤感受性試験を開発した。初代培養細胞は細胞数と ^3H -チミジンの取り込み量の間に一定の関係をもつ事が証明された。両者の関係を示す標準曲線を求める事により density inhibition の check および修正が可能となり, RI-uptake 量から細胞数の推定ができる事を, はじめて明らかにした。RI の作用時間および播種細胞数は結果に影響を及ぼさない事も示した。RI-uptake の抑制率を直接薬剤効果の指標として用いるのは適当ではなく, 細胞の生存率で薬剤効果を判定する必要がある事も明らかにした。

Hamamoto, H. et al.: Dupuytren's Contracture: Morphological and Biochemical Changes in Palmar Aponeurosis. The Hand 14: 237-247 (1982).

Dupuytren 拘縮の増殖肥厚した手掌腱膜に対して, 形態学的並びに生化学的検索を加えた。形態学的には, 本疾患の手掌腱膜は, コラーゲン線維の波立った層状構造の中に, active な fibroblast からなる結節構造をもつのが特徴的である。電顕的には, これらの fibroblast の中に肉芽組織等の収縮現象に関与すると云われる myofibroblast が多く見られた。更にこの myofibroblast の胞体内に periodicity をもった collagen fibril の存在を認めた。生化学的には, 線維性蛋白の架橋形成の first step を触媒する lysyl oxidase 活性の著明な上昇を認めた。以上の形態学的, 生化学的所見が本疾患の, 手指の屈曲拘縮という, 特有な病態発生に多きく関与していると考えられる。

細胞化学部門

〔学会発表〕

堀内正宏: 成熟好酸球に特徴的な結晶を顆粒内にもった好酸球コロニーの形成, 第44回日本血液学会総会, 昭和57年4月, 東京。

永田和宏: 細胞分化と収縮性タンパク, 第15回日本発生生物学会大会, シンポジウム「収縮構造の発生とその機能」昭和57年5月, 東京。

永田和宏・相良淳二・市川康夫: マウス骨髄性白血病細胞(M1株)の増殖と分化, 21報, α -アクチニン様蛋白質の精製とそれによるアクチン関与ゲル化, 第41回日本癌学会総会, 昭和57年8月, 大阪。

相良淳二・永田和宏・市川康夫: マウス骨髄性白血病細胞(M1株)の増殖と分化, 22報, アクチンによるミオシン活性化に要する cofactor の精製ならびにその性質について, 同上学会。

前田道之: ヒト皮膚型T細胞白血病細胞(HUT 102)のクローン株により産生される新しいC型レトロウイルス, T細胞増殖因子および顆粒球・マクロファージ産生刺激因子について, 同上学会。

淀井淳二, 内山 卓, 通堂 満, 前田道之: ATL 由来T細胞株の ATL 特異的膜抗原の抗体による発現の上昇について, 同上学会。

市川康夫: 白血病細胞の分化と収縮性蛋白, 同上学会, シンポジウム「発癌遺伝子の発現と細胞内作用点」

内山 卓, 淀井淳二・通堂 満, 和野雅治・内野治人・高月清・前田道之: 成人T細胞白血病細胞における Tac 抗原(IL2 リセプター)発現調節——正常細胞との相異, 第12回日本免疫学会総会, 昭和57年11月, 仙台。

永田和宏・相良淳二, 市川康夫: 白血病細胞の分化に伴う細胞質ゲル化の質的变化, 第35回日本細胞生物学会大会, 昭和57年11月, 福岡。

市川康夫・永田和宏, 相良淳二: 血球分化に伴うアクチンの変化, 同上学会, シンポジウム「アクチン——構造と機能」

〔誌上発表〕

K. Nagata, J. Sagara and Y. Ichikawa: Changes in contractile proteins during differentiation of myeloid

leukemia cells. II. Purification and characterization of actin. *J. Cell Biol.* **93**, 470-478, 1982.

K. Nagata, J. Sagara and Y. Ichikawa: A new protein factor inhibiting actin-polymerisation in leukemic myeloblasts. *Cell Struct. Funct.* **7**, 1-7, 1982.

K. Nagata: Cell differentiation and contractile proteins. *Develop., Growth & Differ.* **24**, 385, 1982.

J. Sagara, K. Nagata and Y. Ichikawa: Changes in myosin during differentiation of myeloid leukemia cells. *J. Biochem.* **91**, 1363-1372, 1982.

J. Sagara, K. Nagata and Y. Ichikawa: A cofactor protein required for actin activation of myosin Mg^{2+} ATPase activity in leukemic myeloblasts. *J. Biochem.* **92**, 1845-1851, 1982.

R. C. Gallo, D. Mann, S. Broder, F. W. Ruscetti, M. Maeda, V. S. Kalyanaraman, M. Robert-Guroff, and M. S. Reitz: Human T-cell-leukemia-lymphoma virus (HTLV) is in T- but not B-lymphocytes from a patient with cutaneous T-cell lymphoma. *Proc. Nat. Acad. Sci. USA.* **79**, 5680-5683, 1982.

M. Robert-Guroff, K. A. Fahey, M. Maeda, Y. Nakao, Y. Ito, and R. C. Gallo: Identification of HTLV p19 specific natural human antibodies by competition with monoclonal antibody. *Virology* **122**, 297-305, 1982.

R. C. Gallo, V. S. Kalyanaraman, M. G. Sarnagadharan, A. Sliski, E. C. Voderheid, M. Maeda et al.: The human type-C retrovirus; Association with a subset of adult T-cell malignancies. *Cancer Res.* (in press)

Y. Ichikawa, K. Nagata and J. Sagara: Differentiation of myeloid leukemia cells and changes in their contractile proteins. *Acta Pathol. Jpn.* **32** (Suppl. 1) 187-196, 1982.

市川康夫, 永田和宏, 相良淳二: 白血病細胞の分化と細胞内収縮蛋白の変動, 妹尾左知丸編「血液幹細胞——その動態と分化」福武書店, p. 453-466, 1982.

市川康夫: 顆粒球系細胞の分化, B: マクロファージと好中球, 新版日本血液学全書刊行委員会編「日本血液学全書1. 血球の分化」丸善, p. 255-263, 1982.

細菌血清学部門

〔学会発表〕

喜納辰夫, 矢野勝喜, 桂 義元: ハプテン特異的ヘルパー T 細胞の遅延型過敏症活性, 第49回実験結核研究会総会 (昭57.10月) 岡山

細野正道, 桂 義元: H-2 homogygous F_1 anti-parent 混合培養: 自己障害細胞の出現, 第12回日本免疫学会総会 (昭57.11月) 仙台

喜納辰夫, 矢野勝喜, 高橋千恵, 高沖悠子, 桂 義元: ハプテン基反応性ヘルパー T 細胞誘導の増強機構, 第12回日本免疫学会総会 (昭57, 11月) 仙台

矢野勝喜, 喜納辰夫, 高橋千恵, 森重福美, 桂 義元: 遅延型過敏症活性及びヘルパー活性を持つ株化細胞及びクロンの機能的変化, 第12回免疫学会総会 (昭57, 11月) 仙台

桂 義元: 遅延型過敏症を媒介する T 細胞クローン, 第34回国立大学附置研究所結核及び胸部疾患 (がん・免疫) 談話会 (昭57, 11月) 福岡

〔誌上発表〕

Katsura, Y., Takaoki, Y. and Minato, N.: Augmentation of delayed-type hypersensitivity to serum proteins by vesicular stomatitis virus infection in mice: Virus-suppressor cell interactions. *J. Immunol.*, **129**, 362-365 (1982)

Hosono, M. and Katsura, Y.: The use of phagocytic peritoneal exudate cells as targets for the estimation of cytotoxic T cell activity. *J. Immunol. Methods.* **50**, 289-297 (1982)

Kina, T., Nishikawa, S. and Katsura, Y.: T-cell regulation of pokeweed-mitogen-induced polyclonal immunoglobulin production in mice. I. Characterization of helper T cells. *Immunology* 46, 575-581 (1982)

Kina, T., Nishikawa, S. and Katsura, Y.: T-cell regulation of pokeweed-mitogen-induced polyclonal immunoglobulin production in mice. II. Mechanism of the induction of suppressor T cells. *Immunology* 46, 583-587 (1982)

泉 孝英, 桂 義元: ツベリクリン反応の新しい応用, 免疫機能の簡便な指標として, *Medicina* 第19巻, 11号, 2052-2068, 1982.

臨床肺生理学部門

〔誌 上 発 表〕

佐川弥之助: 新しい呼吸器病大系の確立を望む, 呼吸, Vol. 1 No. 2: 155, 1982

佐川弥之助: 肺水腫, 呼吸, Vol. 1 No. 2: 156, 1982

佐川弥之助: 肺水腫障害, 特に肺水腫をめぐる, 呼吸, Vol. 1 No. 2: 165, 1982

佐川弥之助: 特別講演, 最近における胸部疾患の診断と治療の進歩, 結核, Vol. 57: 603, 1982

大井元晴, 佐川弥之助: Q, Qs, 肺コンタクトタイム, 循環時間, 呼吸と循環30: 523-525, 1982.

大井元晴, 加藤幹夫, 佐川弥之助他: 慢性肺疾患の急性増悪例——呼吸刺激薬が奏効——, 治療学 8: 757-760, 1982.

大井元晴, 加藤幹夫, 佐川弥之助: 慢性呼吸不全にみられる睡眠時酸素飽和度の変化, 厚生省特定疾患「呼吸不全」調査研究班昭和56年度業績集

大井元晴, 新林成介, 陳 和夫, 平井正志, 加藤幹夫, 佐川弥之助: Sleep apnea の問題点, 呼吸 1: 139-142, 1982.

石部裕一: 気管内吸引法, 臨床医, 8巻増刊: 2136-2141, 1982.

宮本和之, 石部裕一他: ハロセン—サクシニルコリン併用により悪性高熱症を疑った4症例, 麻酔と蘇生, 18巻3号, 153-158, 1982.

加藤幹夫, 前川暢夫他: 呼吸器病学 1. 肺機能をめぐって, 特集臨床医学の展望, 日本医事新報3017: 3-11, 1982.

加藤幹夫, 山田久和, 李 泰興: 慢性疾患の治療と管理 ARDS, 現代医療14: 1521-1528, 1982.

加藤幹夫: 肺機能の問題点, 若年者の肺機能予測値について, 日胸疾会誌20: 154-156, 1982.

加藤幹夫: 呼吸器疾患と中枢神経障害, 臨床成人病12: 1427-1433, 1982.

Kato, M.: Chronic Effects of Fire Casualty on Pulmonary Function, 京大結研紀要15: 77-85, 1982.

加藤幹夫: 呼吸機能の正常値と予測式, mixed Venous Blood, 呼と循30: 529-530, 1982.

加藤幹夫, 肺内水分量の測定, 呼吸 1: 185-190, 1982.

加藤幹夫: 気管切開の実際 Medical Illustration, 日本医師会雑誌88: 478, 1982.

山岡久泰, 留守信興, 久場良彦, 福武洋二: 全身麻酔中に心電図異常により気づかれた小児の局所麻酔中毒の2症例, 麻酔31: 759-763, 1982.

〔学 会 発 表〕

佐本昌平, 加藤幹夫, 佐川弥之助: 慢性閉塞性肺疾患における胸腔内ガス圧縮量, 第5回日本気管支研究会総会, 1982, 1

手塚裕章, 藤田正憲, 飯塚満男, 久保勝彦, : るいそう, 心窩部痛, 発熱, 嘔吐をきたした糞緑虫症の1例, 第25回大阪内科懇話会, 1982. 2

久野健志, 中川正清, 三嶋理晃, 安井浩明, 東谷康治: トポグラフィカルな換気, 血流, 換気血流比分布より

みた呼吸機能障害の検討, 厚生省特定疾患「呼吸不全」調査研究班, 1982. 2

坪井裕志, 市谷勉雄, 弘野慶次郎, 佐々木正道: (radiologically) occult lung cancer の1例, 第36回日本肺癌学会関西支部会, 1982. 2

大井元晴, 加藤幹夫, 佐川弥之助: 慢性呼吸不全にみられる睡眠時酸素飽和度の悪化, 厚生省特定疾患「呼吸不全」調査研究班昭和56年度第2回総会, 1982. 2

加藤幹夫, 李 勝弘, 佐藤公彦: RA 様症状と共に発症した限局性間質性肺炎の1例, 第19回 FLD シンポジウム, 1982. 3

佐川弥之助: 特別講演, 肺結核の診断における胸部疾患の診断と治療の進歩, 第57回日本結核病学会総会, 1982. 4

加藤幹夫: 血液ガス測定法の実際と臨床応用, 主催日本卒後教育センター, 1982. 4

佐野 求, 加藤幹夫, 佐川弥之助: 低酸素性肺血管収縮反応——肺血行動態の血流再配分に及ぼす影響について(第3報) 第22回日本胸部疾患学会総会, 1982. 4

大井元晴, 陳 和夫, 新林成介, 加藤幹夫, 佐川弥之助: 結核治癒後慢性呼吸不全にみられる睡眠時酸素飽和度の悪化, 第22回日本胸部疾患学会総会, 1982. 4

加藤幹夫: 機械呼吸の進歩, 人工呼吸治療に関連した呼吸生理の基礎, 第39回大阪呼吸器疾患談話会, 1982. 5

佐野 求, 加藤幹夫, 佐川弥之助: 心拍出量変化の肺内シャント効果に及ぼす影響について, 第2回京阪神肺機能研究会, 1982. 5

坪井裕志, 市谷勉雄, 弘野慶次郎, 佐々木正道: radiologically occult lung cancer について, 大阪赤十字病院集談会, 1982. 5

山岡久泰, 留守信興, 三島誠悟: 重篤な呼吸不全を呈した小児の *Pneumocystis carinii* 肺炎の一症例, 第9回日本集中治療医学会総会, 1982. 5

山岡久泰, 留守信興, 三島誠悟: 重症心身障害児の呼吸不全について, 第9回日本集中治療医学会総会, 1982. 5

石部裕一他: 人工呼吸回路の吸入温調節法についての検討, 第9回日本集中治療医学会総会, 1982. 5

藤田正憲, 崎田倫代, 山田公二, 室本 仁, 倉田正彦, 岡田英彦, 木村泰造, 高 欽澤: Diagnostic Thoracoscopy for Intrathoracic Disease without Demonstrable Pulmonary Lesion on Chest Film. III World Congress on Lung Cancer, Tokyo, 1982, 5

李 泰興, 安田隆三郎他: 冠動脈・肺動脈瘻の一手術治験例, 第13回滋賀県循環器疾患研究会, 1982. 5

李 勝弘, 佐藤公彦, 加藤幹夫, 佐川弥之助: RA に合併した限局性間質性肺炎の1症例, 第49回日本結核病学会, 第19回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1982. 6

佐野 求, 加藤幹夫, 佐川弥之助, 平田健雄, 木野稔也: インコ飼育小児にみられた *Asp. orizae* 抗体陽性の過敏性肺臓炎の1例, 第49回日本結核病学会, 第19回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1982. 6

新林成介, 大井元晴, 加藤幹夫, 佐川弥之助: Sleep apnea syndrome を合併した COPD の1例, 第49回日本結核病学会, 第19回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1982. 6

手塚裕章, 藤田正憲, 室本 仁, 倉田昌彦: Pepleomycin によると考えられる急速に進行した間質性肺線維症の一剖検例, 第49回日本結核病学会, 第19回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1982. 6

山田公二, 杉田 実: 拡散能測定値に及ぼす二, 三の因子の影響, 第49回日本結核病学会第19回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1982. 6

山田公二, 杉田 実: FV 曲線の下降脚の指標の比較, 第49回日本結核病学会, 第19回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1982. 6

村田純子, 江口 忠, 山田公二, 室本 仁: 第107回内科学会近畿地方会, 1982. 6

安藤史隆, 安田隆三郎, 李 泰興他: 乳児期心臓血管手術症例の検討, 第25回日本胸部外科学会関西地方会, 1982. 6

市谷勉雄, 弘野慶次郎, 坪井裕志, 佐藤公彦, 加藤幹夫, 佐川弥之助, 久野健志: 閉鎖回路法と体プレチスモ法とでえられた残気量の差と巨大嚢胞症の手術効果について, 第25回日本胸部外科学会関西地方会, 1982. 6

坪井裕志, 市谷勉雄, 弘野慶次郎, 内平文章, 佐々木正道: 肋間動脈が異常血管であった肺葉内分画症について, 第25回日本胸部外科学会関西地方会, 1982.6

大井元晴, 陳 和夫, 新林成介, 佐野 求, 加藤幹夫, 佐川弥之助: 経皮 P_{CO_2} 電極の使用経験, 第2回京阪神肺機能研究会, 1982.6

大井元晴, 加藤幹夫, 佐川弥之助: 呼吸不全にみられる睡眠時酸素飽和度の悪化, 第9回佐島カンファレンス, 1982.6

佐本昌平, 平井正志, 加藤幹夫, 佐川弥之助: 慢性閉塞性肺疾患 (Type A) における肺内圧縮ガス量について, 第24回閉塞性肺疾患研究会, 1982.7

三嶋理晃, 陳 和夫, 東谷康治, 中川正清, 久野健志, 佐川弥之助: ランダム波オシレーション法による呼吸インピーダンスの気体力学的解析・第一報: 胸郭内 air の dynamic compression の検討, 第25回閉塞性肺疾患研究会, 1982.7

平井正志, 大井元晴, 陳 和夫, 新林成介, 佐川弥之助: 手術後の患者監視としての経皮 PO_2 と PCO_2 の測定, 第2回京都呼吸器シンポジウム, 1982.7

福本仁志, 倉田正彦, 高 欽澤, 藤田正憲, 室本 仁: 肺癌の脳転移症例について, 第37回肺癌学会関西支部会, 1982.7

藤川 潤, 藤田正憲, 江口 忠, 倉田昌彦, 室本 仁: 気管支鏡下に除去しえた閉塞性肺炎をともなう気管支結石の一例, 気管支鏡学会1982.7

弘野慶次郎, 市谷勉雄, 坪井裕志: 肺癌手術後の胸壁動揺曲線, 第37回日本肺癌学会関西支部会, 1982.7

倉田昌彦, 福本仁志, 高 欽澤, 藤田正憲, 室本 仁, 杉山武敏: 大細胞癌の臨床病理学的検討, 肺癌学会総会, 1982.8

加藤幹夫: パネルディスカッション O_2 療法の基準, ARDS に対して, 第23回呼吸管理研究会, 1982.8

弘野慶次郎, 市谷勉雄, 坪井裕志: 開胸術後の肺合併症 (特に喀痰喀出困難) 原因考察——特に胸壁動揺曲線を抽記して——, 第23回日本肺癌学会総会, 1982.8

山岡久泰, 小松 彪, 留守信興, 久場良彦, 三島誠悟, 森山 亨, 高山 茂, 橋本まち子: 食道癌根治手術に対するフェンタニル大量麻酔における血糖値, コルチゾール値の変動について, 第28回日本麻酔学会関西地方会, 1982.9

小中義照, 河崎 昭, 紺田 進, 室本 仁: 下痢を主徴とした VEPA 療法が奏効した ATL の一例, 第26回大阪内科懇話会, 1982.9

神内寿男, 藤田正憲, 室本 仁: Pulmonary aplasia の一例, 第108回内科学会近畿地方会, 1982.9

藤田正憲, 室本 仁, 和田泰三, 杉山武敏: 急激に呼吸不全を呈したびまん性肺陰影の一例, 第18回びまん性肺疾患研究会, 1982.9

石部裕一他: 高頻度陽圧呼吸 (HFV) の肺血管外水分量 (PFVW) に及ぼす影響, 第28回日本麻酔学会関西地方会, 1982.9

石部裕一, 中村正人他: 笑気-エンフルレン麻酔中の血中カテコールアミン濃度, 第28回日本麻酔学会関西地方会, 1982.9

石部裕一, 佐々木雅綱他: 微細 K^+ 電極によるウサギ骨格筋細胞内 K^+ の in vivo での測定, 第28回日本麻酔学会関西地方会, 1982.9

市谷勉雄, 弘野慶次郎, 坪井裕志, 溝口精二, 井上清俊, 栗原直嗣: 気腫性巨大嚢胞症の手術後の機能改善, 第35回日本胸部外科学会総会, 1982.10

安藤史隆, 安田隆三郎, 李 泰興: 乳児期心臓血管手術症例の検討, 第35回日本胸部外科学会総会, 1982.10

弘野慶次郎, 市谷勉雄, 坪井裕志: 開胸術前後の胸壁動揺曲線について, 第18回日本赤十字社医学会総会, 1982.10

辻本正三郎, 宮本茂充: 天川村における村民検診, 全国国保医療学会, 1982.10

安田隆三郎, 李 泰興: 弁置換術に冠血行再建を併せ行った二症例について, 第14回滋賀県循環器疾患研究会, 1982.11

安田雄司, 安田隆三郎, 李 泰興: 生後2ヶ月の大動脈弓離断法に対する Staged Operation について, 第14回滋賀県循環器疾患研究会, 1982. 11

松野修一, 安田隆三郎, 李 泰興: 僧帽弁狭窄症15例の手術経験, 第14回滋賀県循環器疾患研究会, 1982. 11

田畑良宏, 安田隆三郎, 李 泰興: 虚血性心疾患に対する A-C bypass 手術症例の検討, 第14回滋賀県循環器疾患研究会, 1982. 11

石部裕一, 中村正人: 大量フェンタニール麻酔による開心術における血中カテコールアミン濃度, 第2回日本臨床麻酔学会総会, 1982. 11

坪井裕志, 市谷勉雄, 弘野慶次郎: 肺手術後の肺合併症の成因検討——胸壁動揺曲線を解析して——, 第20回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1982. 11

新林成介, 加藤幹夫, 佐川弥之助, 戸田佳代子, 竹田俊男: 若年者にみられた巨大嚢腫を伴った肺葉性肺気腫の一例, 第20回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1982. 11

田中瑩子, 藤田正憲, 室本 仁, 倉田昌彦: 広義の Meigs 症候群と考えられる2症例, 第20回日本胸部疾患学会近畿地方会, 1982. 11

平井正志, 大井元晴, 仲田裕行, 平林正孝, 山岡新八, 佐川弥之助: Respiratory Inductive Plethysmography のキャリブレーションに関する検討, 第8回西部肺機能同好会, 1982. 12

井上達秀, 藤田正憲, 八幡三喜男, 久保勝彦: 甲状腺機能亢進症を合併した急性肝内胆汁うつ滞症の1例, 第109回内科学会近畿地方会, 1982. 12

山岡新八, 福永隆文, 平林正孝, 川上賢三: 本研究所における呼吸不全の実態調査, 第5回京都大学結核胸部疾患研究所臨床肺生理学部門研究会, 1982. 12

東谷康治, 久野健志, 中川正清, 三嶋理晃, 陳 和夫: ^{133}Xe 持続注入法による COPD のトポグラフィカルな換気・血流分布の検討, 同上, 1982. 12

三嶋理晃, 久野健志, 中川正清, 陳 和夫, 東谷康治: ランダム波オシレーション法による呼吸抵抗及び肺内ガスのダイナミックコンプレッションの周波数特性の解析, 同上, 1982. 12

島田一恵: Diphenyl hydantoin によると思われる急性呼吸不全の一例, 同上, 1982. 12

河本純子, 田中瑩子, 藤田正憲, 江口 忠, 室本 仁: マイコプラズマ抗体価の上昇をともなった過敏性肺臓炎の一例, 同上, 1982. 12

金 栄治: 診断困難であった栗粒結核の一例, 同上, 1982. 12

大成功——: 一般内科病棟における結核菌排菌患者の分析, 同上, 1982. 12

陳 和夫, 久野健志, 三嶋理晃, 中川正清, 東谷康治: ^{201}Tl (塩化タリウム) による肺内水分量測定を試み同上, 1982. 12

中村正人, 石部裕一: Lung water computer (model 9310) の使用経験, 同上, 1982. 12

安井浩明, 吉田龍太郎, 滝川 修, 早石 修: インターフェロンにより誘導される2つの酵素インドールアミン酸素添加酵素及び2-5A合成酵素のマウス肺における動態, 同上, 1982. 12

福田正悟, 横見瀬裕保, 李 勝弘, 玉田二郎, 左利厚生: ステロイドによく反応した ARDS の一症例, 同上, 1982. 12

山岡久泰: 重症心身障害児の呼吸不全について, 同上, 1982. 12

安田隆三郎, 李 泰興, 島田一恵: 肺動静脈瘻の一例, 同上, 1982. 12

市谷 勉雄: Morgagni 孔ヘルニアの四症例, 同上, 1982. 12

末次 勸: 解熱鎮痛剤喘息への診断に関する研究 Tolmetin-Na による吸入誘発試験について一, 同上, 1982.